

2017年3月1日

みずほディーラーズアイ (2017年3月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 108.00 ~ 115.00

国際為替部 為替営業第二チーム 矢野 正東

■ 先月の為替相場

2月のドル/円相場は「方向感に欠ける中、概ね111円半ば～115円でのレンジ推移」となった。

月初は「上値の重い展開」となった。前月末にかけてトランプ米大統領が移民の入国を制限する大統領令に署名したことや中国と日本は通貨安誘導していると発言したことなどから円買い優勢な地合いのなか112.80円で始まった2月相場だが、月初1日に公表された米1月ADP雇用統計や1月ISM製造業景気指数の良好な結果を材料に反発し、113円台後半まで上昇した。ただ、注目されたFOMCでは市場予想通り政策金利は据え置かれ、次回利上げへの期待感も乏しく113円前半まで売り戻された。翌2日にはドル売りの流れや軟調な株価を背景に続落し、再び112円台半ばまで下落。さらに、英中銀(BOE)金融政策委員会でのハト派な内容を受けた英金利低下とともに米金利も低下したため、112.05円まで水準を切り下げた。米1月雇用統計後は、仏大統領選を前に極右勢力の台頭が懸念され、欧州中心にリスクオフの動きが加速した影響からドル/円も売り優勢の展開となり、7日には年初来安値となる111.59円まで下落した。

月央にかけては「反発する展開」。111円台では押し目買いが観測される中、短期勢のストップスを巻き込んで112円台半ばまで反発。9日にトランプ大統領から大幅減税を期待させる発言があったことから米株式相場が最高値を更新すると、ドル/円相場も買い優勢となり113円台を回復した。10～11日に開催された日米首脳会談を消化した後、14日にイエレンFRB議長が上院議会証言で「利上げを待ち過ぎるのは賢明ではない」とのタカ派寄りの発言が材料視され114円を上抜けすると、翌15日には米2月NY連銀製造業景気指数や1月消費者物価指数(CPI)などの経済指標が良好な結果となったことから上値を試し、月中最高値となる114.95円まで水準を切り上げた。

月末にかけては「再び上値の重い展開」となった。114円台後半では利食い売りが見られたほか、米1月鉱工業生産指数の悪化や欧州株価の軟調推移からクロス円中心に上値重く推移すると、米長期金利の低下も材料となり112円台半ばまで下落する場面も見られた。その後しばらく、113円台前半での揉み合いが続いたが、米3月利上げに対する不透明感や24日公表の米1月新築住宅販売件数の低調な結果、トランプ新政権による政策運営の不確実性などから米金利低下が進む中、ドル/円相場も上値の重い展開となり、112.78円で越月となった。

■ 今月の見通し

3月のドル/円相場はトランプ大統領の政権運営や米金融政策を材料に波乱含みの展開を予想する。

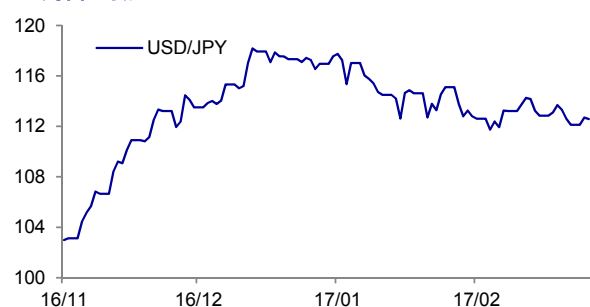
世界中が注目した米大統領選から約3か月半。劣勢予想を覆して歴史的勝利をおさめたトランプ大統領に対する政策運営、特に財政政策への期待感から上昇してきたドル/円相場も、時間の経過とともに徐々に水準を切り下げている。足許ではムニューチン米財務長官が「税制改革の骨子を固めるのにはなお時間を要する」と示唆するなど、国境調整税を含む税制改革や財政出動に対する不透明感が高まってきていることが上値を重くする一要因となっている。この不透明感の払拭には、市場の期待する(またはそれ以上の)財政出動の規模や実行までの迅速なスピード感といったものが必要となろう。ムニューチン財務長官は社会保障やメディケア(高齢者向け医療保険制度)といった給付金プログラムには触手せず、減税を通じて長期的な経済成長を実現する施策に重点を置くと言及している。今月中旬に公表予定の予算教書の内容如何によっては市場に失望感を与えかねず、ドル/円相場の下落に繋がりがかねない。

次に、米金融政策に目を向けてみたい。2月14～15日の米上下両院においてイエレン議長が議会証言で「緩和解除を長く待ちすぎるのは賢明ではない」と述べたことを受け、3月実施も含めた早期利上げ観測が高まった。一方で、2月22日に公表されたFOMC議事要旨(1月31日～2月1日開催分)を見ると、投票権を持つメンバーは追加利上げを急いでいない姿勢も伺える。そのような中、足許の短期金利から見る3月利上げの織込み確率はFF金利先物では約30%程度、翌日物金利スワップ(OIS)では約50%程度となっており、市場の早期利上げ期待は相応に高いものとなっている。3日のイエレン議長の講演会を最後にブラックアウト期間に入ることから、次回FOMC(3月14～15日開催)までの間は雇用統計(10日公表)など米経済指標や予算教書の内容に振られることとなろう。

3月のドル/円相場を占う上では、中旬に公表予定の予算教書をはじめとする「トランプ政権の財政政策」が鍵となろう。前述の通り、市場の期待を裏切る内容となれば失望感からのドル売りが加速することも想定される。また、期待感の後退からFRBによる大幅な利上げ観測に対しても懐疑的な見方が強まる可能性もある。また米株式相場の調整にも注意が必要となろう。早くも不支持率が支持率を上回ったとされるトランプ政権の政策動向は今月も相場の主要テーマとなるため、下方調整リスクには注意しておきたい。

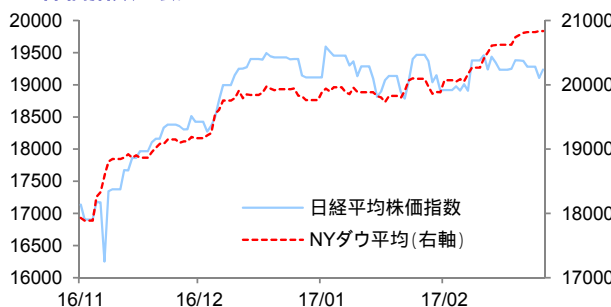
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
2/1	米ISM製造業景況指数	1月	55.0	56.0	54.5
2/1	FOMC政策金利	2月	0.50% ~ 0.75%		
2/3	米非農業部門雇用者数変化	1月	180K	227K	156K
2/3	米失業率	1月	4.7%	4.8%	4.7%
2/10 ~ 11	日米首脳会談	-			
2/15	米消費者物価指数(前年比)	1月	2.4%	2.5%	2.1%
2/15	米小売売上高(前月比)	1月	0.1%	0.4%	1.0%
2/28	GDP(年率/前期比)	4Q	2.1%	1.9%	1.9%
2/28	トランプ米大統領 議会演説	-			

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ ドル・ブル (5名、110.00～118.50、中心110.00～117.00)

加藤	110.00 ～ 118.50	FRBのスタンスは可能であれば3月でも利上げ踏み切ろうとするもの。やはり鍵となるのはトランプ大統領で、減税や財政支出が期待したものほどでなければドル売り、我々の想像を超えたものが出れば120円トライとなろう。
佐藤	110.00 ～ 117.00	良好な米経済指標を背景に早期米利上げ期待が高まりやすく、トランプ大統領に対する政策期待が一時的に剥落する局面でもドル/円の下値は限定的と考える。基本的には月内に予定される予算教書提出に向けてドル/円は底堅さを確認することになろう。
西島	110.00 ～ 117.00	急速に高まり始めたFRBの3月利上げ機運は、ドル相場の底堅さを演出。トランプ政権への期待感と警戒感が交錯し、なかなか方向感を見出しにくく、レンジ相場が基本線とみるが、FOMC次第では一旦上向きバイアスが意識される可能性も。高値圏で推移する米国株の反落に伴うリスクオフ相場には注意。
西谷	110.00 ～ 116.00	米経済は堅調さを保っており、FED高官からもタカ派な発言が目立つようになるなど、FRBが今月のFOMCで利上げに踏み切る可能性はあると考えている。トランプ大統領の財政政策に関するヘッドラインには引き続き注意が必要であるが、利上げの期待感を背景にドル/円は底堅く推移すると予想する。
鶴田	110.00 ～ 117.00	今月は、トランプラリーを支えたトランプ政権の掲げる経済政策が具体化されていく可能性を秘めた予算教書演説に注目。基本的にはレンジ推移と考えるも、徐々に同政策の方向性が明らかとなる展開に、ドル/円は底堅く推移すると予想する。

■ ドル・ベア (7名、107.00～116.00、中心108.00～115.00)

藤崎	107.00 ～ 115.00	米追加利上げタイミングの後ずれの可能性、トランプ新政権の財政出動の時間軸長期化により、ポジション調整先行の展開を予想。3月は本邦決算に向けてのリバトリやヘッジ積み増しも見込まれ、円高圧力がかかり易い。
山下	107.00 ～ 114.00	去年11月からのドル高の悪影響が経済指標の数字に表れてくる頃であり、トランプ政権も政策の矛盾を修正すべく、ドル高懸念を明確に示してくると思えられる。トランプノミクス頼りの米利上げにも無理があり、今月のFOMCは見送りを予想。ドル安が進むと見る。
矢野	108.00 ～ 115.00	トランプ政権の財政政策、特に予算教書の内容如何で、同政権への政策運営に対する期待感の後退とともに、FRBによる早期・大幅利上げ観測の後退にも繋がりがかねない。米株式相場の調整もリスク要因。材料消化後の失望感からの下落に注意が必要となろう。
高田	107.00 ～ 115.00	足許FRBの要人発言を背景に米利上げ期待の高まりからドル/円は下支えされているが、トランプ政権の掲げる政策実現能力を見極めるまでは追加のドル買いは難しいであろう。むしろ政権の運営能力に疑義が生じれば米長期金利の低下と共にドル/円は下値を試すであろう。
下山	108.00 ～ 116.00	トランプ政権の政策実現可能性の不透明感を背景とした株安等のリスクセンチメント後退に加え、本邦企業のB/Sヘッジやリバトリの円買い等のフローも入りやすいと思われ、ドル/円相場の上値を押さえるだろう。但し、米3月利上げの可能性も相応にあり、利上げされた場合には一時的に急騰しよう。
森谷	108.00 ～ 115.00	トランプノミクスについて不透明感が強く意識されており、具体策がなかなか見えてこない中では期待感の後退とともにドル売り圧力が高まることとなるだろう。米株式市場の動向に過熱感があることは否めず、調整局面においてはドル/円も連れ安となることが想定される。
大熊	108.00 ～ 115.00	トランプ政権による税制改革案の遅れや、財政政策に対する不透明感の継続等から新政権に対する市場の期待は徐々に剥落している。また、FRBはトランプ政権の運営を見極めたいことから利上げを急いでいないと思われる為、ドル買いの流れにはなりにくく上値は重い推移となりそうだ。

ユーロ相場

予想レンジ:

EUR/USD 1.0100 ~ 1.0700
EUR/JPY 115.00 ~ 120.00

国際為替部 為替営業第二チーム 山下 智子

■ 先月の為替相場

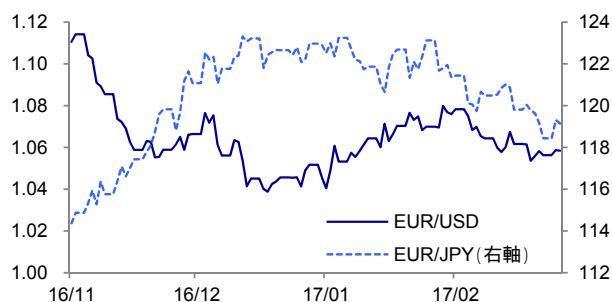
今月のユーロ相場は月初から上値の重い展開となった。月初、ユーロ圏1月製造業PMI(確報)の改善を受けて、ユーロ/ドルは1.07台後半で堅調推移も、米経済指標の良好な結果を好感したドル買いに1.07台半ばまで下落。2日に、米金利の低下を受けて1.08台前半まで上昇したが、米金利の反発もある中で1.07台後半まで下落。その後、6日のシドニー時間に1.08台前半まで上昇するも、4～5月のフランス大統領選挙での極右政党候補当選への警戒感が強まり、リスク回避の動きから1.07台前半まで下落した。その後、1.06台後半まで弱含むが、米長期金利低下を受けたドル売りやバイトマン独連銀総裁の「インフレが上昇したら、緩和的な政策は終わらせるべき」との発言に、1.07台前半まで上昇。8日にかけて、欧州政治やギリシャ債務問題への懸念が浮上すると、1.06台前半をつけたが、その後は米長期金利の低下を受けて直ぐに1.07台前半まで値を戻した。9日に、トランプ米大統領の減税を示唆する発言や米長期金利の上昇を背景にドル買いが強まり、1.06台半ばまで下落。週明け、一時1.06台後半まで強含むも、米長期金利の上昇を受けたドル買いに1.05台後半まで下落した。14日の独2月ZEW景況指数の悪化を受けて、上値重い展開が続く中、イエレンFRB議長のタカ派寄りの発言が材料視されるとドル買いが強まり、ユーロ/ドルは一時1.05台後半まで下落した。15日には、米2月NY連銀製造業景況指数や米1月CPIなどの良好な米経済指標の結果を受けたドル買いに、ユーロ/ドルは1.05台前半まで値を下げる場面が見られたが、米長期金利の低下を背景に1.06台前半まで回復。16日は、ドル売り優勢地合いの中、1月のECB理事会議事要旨が公表され、買入れ国債の構成変化を容認するの内容からユーロ買いが強まり1.06台後半まで上昇した。週初20日、独野党が与党の支持率を10年ぶりに上回ったほか、仏大統領選の世論調査で極右政党の国民戦線(FN)党首のルペン氏が支持を伸ばしているとの報道に1.06台前半で上値重く推移した。翌21日にかけても仏大統領選を巡る政治リスクが意識される状況下、1.05台前半まで下落した。翌日の好調な米経済指標を受けたドル買いにユーロ/ドルは1.04台後半をつける場面も見られたが、仏大統領選において、バイエル候補が出馬を取りやめ、マクロン元経済相を支持すると発言したことを受けて1.05台後半まで反発した。23日は米長期金利の低下にドル売りが強まるも、一時1.06台前半まで上昇する場面も見られたが、政治リスクを嫌ったユーロ売りに1.05台へ再び回帰。最終週も1.05後半から1.06前半での推移となった。

■ 今月の見通し

先月に引き続き、今月も上値重い展開を予想する。目下の注目点は、地政学・政治リスク対ECBテーパリングだろう。仏大統領選挙を来月に控え、世論調査で極右・国民戦線のルペン氏が支持率を伸ばしているが、仏大統領選挙の制度上、同氏が勝利する可能性は低い。4月23日に行われる第一回投票で過半数の票を獲得できた候補がいない場合、上位2候補による5月7日の決戦投票が行われる。直近の世論調査ではルペン氏がトップの支持を得るも、過半数には達しておらず、中道系の独立候補であるマクロン氏、フィヨン元首相が僅差でそれに続いており、決戦投票は避けられない情勢だ。先週、中道のバイエル氏が不出馬を表明しマクロン氏支持に回った。バイエル氏の支持率は10%にも満たないが中道派は手を組んだ形となった。今後も反EUに対する危機感から、中道という手を組み易いポジションのマクロン氏への支持を表明する他候補が出てくる可能性は高い。一方で、手が組みにくいルペン氏はフランス第一主義を盾に世論を動かしたところだが、アメリカ第一主義のトランプ米大統領の評判が芳しくない現在、票の上乗せが難しい状況となっている。しかし、有権者の大半がまだ支持を決めかねており、ブレグジットや米大統領選挙を経験した市場としては、ルペン氏勝利の可能性を排除するわけにはいかないだろう。加えて、オランダの議会選挙が今月15日に予定されている。直近の世論調査では過半数を獲得する政党はなく、連立政権が誕生する可能性が高い。自国第一主義が世界的に台頭している中、オランダ国内ではそこまで高まりを見せてはいないが、多くの政党が参加するであろう政権への不安は残る。ギリシャ債務問題やイタリアのレンツィ元首相の民主党党首辞任・分裂にスペイン・カタルーニャ自治州独立問題の再燃と地政・政治リスクの高まりから、ユーロ圏内からの資金流出の兆候は、先月発表されたユーロ圏投資ファンド統計の数字にも表れている。一方、ECBテーパリングについては、通貨安による貿易・財政黒字を叩き出し景気が過熱気味のドイツにとってはテーマとなってもおかしくはないが、周辺国はまだその域に達するどころか、まだ支援が必要。先月、ドラギECB総裁が欧州議会で「長期に渡る金融緩和と低金利からの脱却に際しては、細心の注意を払わねばならない理由が山ほどある」、「ECBの金融政策による支援が依然として必要」と証言しており、任期中の金融緩和と継続に意欲的で、早期のテーパリングはハードルが高そうである。然るに、「地政学・政治リスク> ECBテーパリング」という構図から、ユーロを買い進めていくリスクを犯す必要は無いと考える。

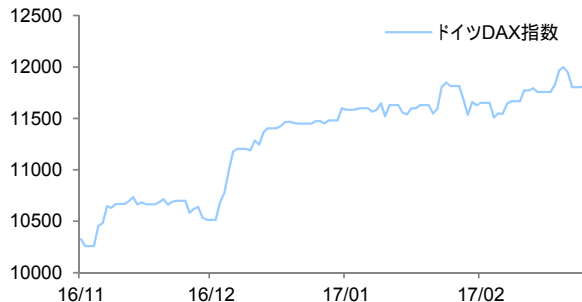
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
2/1	欧 製造業PMI	1月	55.1	55.2	54.9
2/14	独 消費者物価指数 (前月比)	1月	-0.6%	-0.6%	-0.6%
2/14	独 ZEW (現状/期待)	2月	77.0/15.076.4/10.477.3/16.6		
2/14	独 GDP (前期比/前年比)	4Q	0.5%/1.4%	0.4%/1.2%	0.2%/1.2%
2/16	欧 ECB理事会		—	—	—
2/22	独 IFO企業景況感	2月	109.6	111.0	109.8
2/22	欧 消費者物価指数 (前月比)	1月	1.8%	1.8%	1.8%
2/27	欧 消費者信頼感	2月	-6.2	-6.2	-6.2

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ ユーロ・ブル (3名、1.0300～1.1000、中心1.0400～1.1000)

藤崎	1.0400 ～ 1.1000	3月オランダ、4～5月に仏大統領選挙を控え、ユーロ圏の政治リスクが強く意識されるが、市場には既にショートが溜まっている。ユーロ圏の莫大な経常黒字がユーロの下値を支え、仏大統領選挙が楽観シナリオに傾くにつれ下値を切り上げる展開を予想。
高田	1.0300 ～ 1.1000	オランダやフランスで控えるユーロ圏での政治的イベントを勘案すれば確かにユーロは積極的には買いにくい。しかし、市場はこれらを2月までに相応に織り込んだ模様であり、むしろトランプ政権に対する先行き不透明感からユーロが買い戻されると予想する。
佐藤	1.0400 ～ 1.0900	15日のオランダ総選挙や仏大統領選挙に対する警戒は、市場にある程度織り込まれていると考える。仏大統領選挙の投票は4月以降であり、3月にイベント化するリスクは低いだろう。また、オランダ総選挙後は不透明要因が剥落することで、ユーロショートポジションの巻き戻しに、ユーロは堅調な展開を予想する。

■ ユーロ・ベア (9名、0.9900～1.0800、中心1.0100～1.0700)

加藤	0.9900 ～ 1.0700	今年は政治が為替相場の鍵となる年。市場の投機的ポジションがユーロショートに大きく傾いている現状ではイベントをこなすたびにショートカバーが大きく起きることは想像に難くない。そうであっても政治リスクが払拭されるわけではなく、ユーロは下値トライを続けるだろう。
山下	1.0100 ～ 1.0700	BREXIT・米大統領選挙とサプライズを経験した市場としては、仏大統領選挙での極右ルペン氏の勝利の可能性は排除出来ない。仏大統領選挙を前にユーロの下向きヘッジの流れは続くと考え。季節要因もあり、むしろ対円でのユーロ安を予想。
矢野	1.0000 ～ 1.0700	ユーロ圏の経済指標の改善も、仏大統領選挙を控えた政治リスクが高まっている中では買い材料としての勢いは乏しい。今月も引き続き政治リスクが意識され、ユーロの上値を押さえる材料となろう。
西島	1.0100 ～ 1.0800	ルペン・リスクとまで揶揄される仏大統領選、ギリシャ債務問題再燃やイタリア総選挙前倒し観測など、欧州政治リスクが山積している状況下、これらの材料が総じてポジティブな方向に向かわない限り、ユーロ相場の上昇圧力は期待し難い。3月はオランダ議会選挙への思惑にも左右されよう。
下山	1.0100 ～ 1.0700	4～5月の仏大統領選挙がいよいよ視野に入ってくる。足許でもルペン氏の当選確率を巡って様々な憶測が飛んでおり、またユーロがマイナス金利であることも勘案、投機筋としては買いづらいだろう。ユーロショートが機能する局面になりそうだ。
西谷	1.0200 ～ 1.0700	オランダ総選挙、フランス大統領選等々、欧州政治リスクが重荷となり、ユーロの上値を抑えようと考える。またFRBが3月利上げに踏み切る可能性もあり、ユーロは下落する局面が多くなるだろう。
森谷	1.0200 ～ 1.0800	仏大統領選挙をはじめ欧州における政治リスクの高まりが強く意識されている状況下、ユーロは引き続き積極的に買われづらい展開が継続すると予想。また、米3月利上げの有無に関わらず、ECBとFRBの間には金融政策の方向性に明確な差があり、ユーロの上値を抑える要因となるだろう。
鶴田	1.0200 ～ 1.0750	引き続き欧州政治不安が強く意識される中、ユーロが積極的に買われる相場はイメージしづらい。仏大統領選挙を4～5月に控え、ユーロ相場に方向感が出るとは考えづらいが、底堅いドル相場も相俟ってユーロ相場は引き続き上値の重い展開が継続すると予想する。
大熊	1.0100 ～ 1.0700	3月のオランダ総選挙や4～5月のフランス大統領選を控えた欧州政治の不透明感に加えて、ギリシャ追加支援問題も浮上し、リスク回避の地合いが強まりやすい。欧州各国の政局が安定するまでは、軟調な推移となるだろう。

英ポンド相場

予想レンジ:

GBP/USD 1.2100 ~ 1.2800
GBP/JPY 137.00 ~ 146.00

欧州資金部 日比野 杏奈

■ 先月の為替相場

ポンド/ドルは1.25台後半で2月の取引を開始。フォックス英国国際貿易相がEU離脱後の貿易協定について、「既に各国はFTA活用に理解を示している」との発言を受け協定締結の現実味が意識され、またメイ英首相がEU離脱の白書を公表すると発言したことも材料視され、ポンド/ドルは1.26台後半まで上昇。3日の英国中銀(BoE)では政策金利、資産買い入れプログラムはともに全会一致で現状維持を決定。注目されていた成長率予想は2017年、2018年ともに引き上げられた一方で、同期間のインフレ予想はほぼ据え置かれ、インフレ非加速的失業率(NAIRU、インフレ率に関係なく一定の水準で存在する失業率)が5.0%から4.5%へ引き下げられた。発表を受けポンド/ドルは1.25台前半まで大きく下落。その後数日間、ポンドの上値の重さは続き、7日には欧州時間に入ってからドル買いの流れが強まったことを受け、ポンド/ドルは50日移動平均線を割り一時1.23台半ばまで下落。しかし、その後市場がドル売りに転じるとポンド/ドルは再び1.25ちょうど近辺まで反発。

その後1週間程度は1.25ちょうどを挟んでもみ合い。14日に発表された英1月消費者物価指数(CPI)が前年比+1.8%と、2年ぶりの高水準となったものの、市場コンセンサス(同+1.9%)を下回った事が嫌気され、ポンド/ドルは1.24台半ばまで下落。15日に発表された英12月労働関連指標の中で、ボーナスを含む賃金の伸びが市場コンセンサスより弱かったことから、ポンド/ドルは1.23台後半まで売られた。しかし、NY時間に発表された米1月鉱工業生産が弱い結果となると全般的なドル売りとなり、ポンド/ドルは再び1.24台半ばまで反発。その後1週間程度は1.24近辺から1.25近辺の間でレンジ推移。23日欧州時間終盤のムニューチン米財務長官がドル高をけん制するような発言をし、中国を為替操作国と認定することを見送ったことなどからドル売りが加速すると、ポンド/ドルは1.25台半ばまで値を伸ばした。

■ 今月の見通し

市場参加者の関心はマクロ経済よりも政治リスクに傾いている足許の市場環境。今月の50条トリガー法案、およびその他の英国・EU関連スケジュールは以下の通り。

3月7日: 貴族院でのThird Reading開始。この時点で修正がなければ、法案は自動的に法令となる。親EU議員による修正案が出された場合、法案は再び庶民院に差し戻され、PingPong期間が続く。

3月8日: ハモンド財務長官による国家予算の発表。この発表はBrexitをめぐる新たな進展を発表する格好の機会ではあるものの、秋のステートメント発表時(2016年11月23日)から状況は大きく変わっておらず、市場の大きな話題にはならない見込み。

3月10日: ブリュッセルで欧州理事会開催。メイ首相は当理事会に参加予定だが、各国首相の発言を読む限りでは、この場で正式に50条トリガーの通知をする可能性は低い。

3月14日: 貴族院で挙げられた修正案が庶民院で議論される予定。貴族院での修正案を覆すという結果となれば、これで法案は正式に法令となる。この時点でもう一度貴族院に差し戻し、PingPong期間を延長させる決定となれば、EU離脱支持派のメディアから「民意を無視している」と大きく批判される事は必至であろう。

3月15日: メイ首相はこの日に50条を正式トリガーする予定である、とのBBCによる報道もみられる。もし正式にトリガーするのであれば、EU離脱協議を開始したいという意向の手紙がEU各国の首脳へ送られる。

3月25日: EU各国首脳はローマ条約締結60周年を記念すべく、ローマで会合を開く。メイ首相は不参加となる見込み。

■ 今月のつばやき(現地からの声)

『当地のラーメン(ヌードル)事情』
ロンドンに移住する以前は豪、米に住んだ事があるが、総じて海外ではあっさりした塩、しょうゆラーメンよりもよりこってりした味噌、豚骨ラーメンの方が流行る傾向があるように思える。このトレンドはロンドンも然りで、ラーメンといえば豚骨ラーメンの店が多い。個人的に行った事のあるラーメン屋は二軒。

一風堂

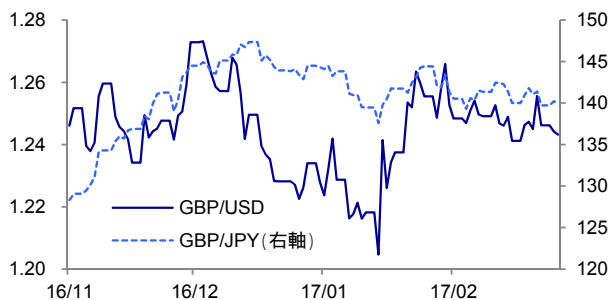
今や世界各国に展開している豚骨ラーメンのIppudo。ロンドンには二か所あり、外銀、監査法人等が多く集まるCanary Wharfに一軒と、レストラン、バーが多く立ち並ぶロンドンの中心エリアTottenham Court近くに一軒。ラーメンだけでなく、餃子、居酒屋風のおつまみなども食べられ、店内は和モダンな装飾になっている。ラーメンは普通においしいが、一杯£10(1400円程度)という値段は日本に比べると割高。

金田屋

こちらも豚骨ラーメンのお店。ロンドンの中心エリアCovent Garden、Piccadillyにそれぞれ一軒ずつ出店。店内はポップな装飾になっており、店内はJpopのBGMが流れている。こちらも普通においしい豚骨ラーメンが食べられるが、一杯£10.50でやはりラーメンとしては少し高いという感覚がぬぐえない。

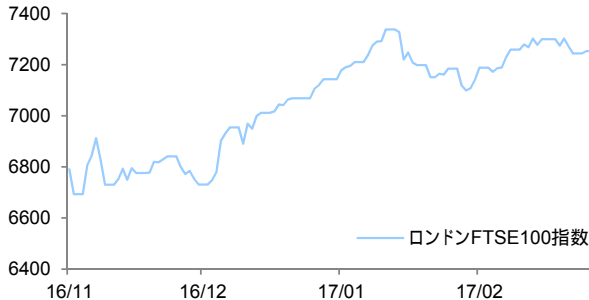
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
2/1	製造業PMI	1月	55.9	55.9	56.1
2/2	建設業PMI	1月	53.8	52.2	54.2
2/3	サービス業PMI	1月	55.8	54.5	56.2
2/10	鉱工業生産(前年比)	12月	3.2%	4.3%	2.2%
2/10	製造業生産(前年比)	12月	1.7%	4.0%	1.7%
2/15	消費者物価指数(前年比)	12月	1.4%	1.6%	1.2%
2/15	ILO失業率	10-12月	4.8%	4.8%	4.8%
2/17	小売売上高(含自動車/前年比)	1月	3.4%	1.5%	4.1%

豪ドル相場

予想レンジ: AUD/USD 0.7400 ~ 0.7800
AUD/JPY 84.00 ~ 88.00

シドニー支店 山口 美紀

■ 先月の為替相場

2月の豪ドルは上昇。

1日、豪ドルは0.75台後半でスタート、翌日、豪12月貿易収支が+35.1億豪ドルの黒字と予想+20億豪ドルの黒字を大幅に上回り、0.76台前半に上昇。海外市場でも豪ドル買いの動きが続き、0.76台後半に上昇した。3日、米1月雇用統計を控え、豪ドルは0.76台半ばに反落するも、米1月雇用統計において、平均時給の伸びが弱く、ドル安が進行。豪ドルは再び0.76台後半に反発した。7日、豪州準備銀行(RBA)理事会では政策金利は過去最低金利1.5%で据え置かれるも、声明文では豪州景気見通しが明るい内容となり、豪ドルは0.76台後半で揉み合い推移した。しかし、海外市場に入ると、豪ドルは0.76台半ばに値をやや下げた。その後、豪ドルは0.76台半ばを中心とした横ばい推移が続いた。

10日、RBA四半期金融政策報告書が発表されるも、豪州経済成長・インフレ見通しが据え置かれ、豪ドルへの影響は限定的となった。13日、トランプノミクス(米株高・米金利上昇・米ドル高)の動きが鮮明に出て、豪ドルは0.76台前半に下落。翌日、豪1月NAB企業景況感がリーマンショック前の水準まで上昇したことを受けて、豪ドルは0.76台後半に反発。しかし、イエレンFRB議長の「緩和措置の解除を待ち過ぎることは賢明ではない」との発言を受けて、ドルが急伸。豪ドルは0.76台前半に下落。15日、世界的な株高を背景に、豪ドルも連れ高となり、豪ドルは0.77を突破した。

21日、RBA議事録では、鉱業投資の減少による成長鈍化は間もなく解消されるとして、楽観的な経済見通しが示され、利下げは検討課題でないとの見方を強めた。引き続き、豪ドルは0.77を挟んで横ばい推移。23日、一時2月高値となる0.7741を付けるも、上値追いの動きはなく、0.76台後半から0.77台前半での推移が続いた。

■ 今月の見通し

「FOMCに注目(SYD時間3月16日発表)」

ここ最近、豪州、米国、新興国など世界的に株価の上昇基調が続いている。トランプ大統領の大型減税策への期待の高まりから、NYダウ平均株価が最高値を更新するなど米国株が堅調に推移していることに加え、新興国経済のファンダメンタルズが改善傾向にあることも追い風となっている。特に注目されるのが中国経済である。中国経済については構造調整などに伴うリスクは依然払拭されていないものの、製造業PMIや内需を反映する輸入が持ち直しており、景気の循環的な回復が観測される。これを背景に、豪州輸出第1位品目の鉄鉱石価格が約2年半ぶりの水準まで上昇している。株価上昇に加えて、商品価格上昇が年始よりの豪ドル上昇のドライバーとなった。

また、豪1月雇用統計(2月16日発表)では、フルタイム就業者が▲4万4800人と大きく減少した一方、パートタイム就業者が+6万人近く増加と、パートタイム就業者の増加が再び顕著になった。過去1年では、フルタイム就業者が▲5万6100人減少し、パートタイム就業者が+15万9400人増加している。このような構造を勘案すると、労働市場は今後数年は大きなインフレ圧力をもたらさないだろう。RBAも労働市場の先行き不透明感をリスクと指摘しており、RBAはしばらく金融緩和姿勢維持と見る。

一方、米利上げ判断に影響を与える米1月消費者物価指数(CPI)が上昇したことに加えて、イエレンFRB議長が議会証言にて早期利上げを示唆した。かかる中、3月14~15日のFOMCにてまずは利上げの有無が注目される。2016年12月に発表されたFRBメンバーの政策金利見通し(ドットチャート)では、FRBの大半のメンバーが2017年に3回の利上げを予想しており、米短期金利先物金融市場でも約30%織り込まれている。次に、FOMC声明文、イエレン議長記者会見、ドットチャートによる利上げに関するヒントの有無に関心が集まる。

利上げを展望する米国と金融政策据え置きを展望する豪州の金融政策の方向性の違いから、豪ドルは下落を予想する。しかし、中国の需要増加観測を背景とする商品価格の上昇は豪ドルのサポート材料となることから、下落幅は緩やかなものとなる。

■ 今月のつばやき(現地からの声)

『当地のラーメン(ヌードル)事情』

入行以降、私はデリバティブ営業部、市場営業部、シドニー支店に所属してきた一方、ラーメン部(二郎)、ラーメン部(醤油、塩、あっさり系)、カレー部(神保町巡り)のdeepな夜の部にも所属してきました。横浜育ちの私の好物は家系豚骨醤油と魚介豚骨になります。

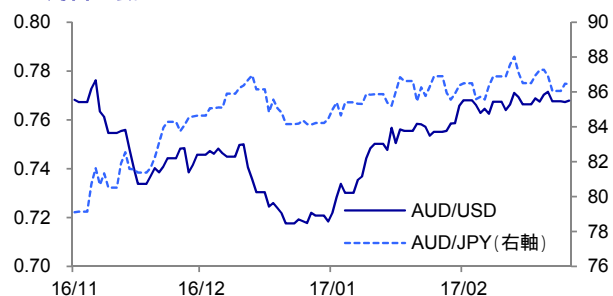
それでは、さっそく当地のラーメン事情をつぶやきます。ホームグラウンドのシドニーには有名チェーン店の一風堂もあり、ラーメン屋さんは数多くある気がします。味もそこそこ美味しいと思われそうですが、物価高(労使コスト高)の豪州ではラーメンが15~25豪ドル(1320~2200円、1豪ドル=88円)と日本の2~3倍するのが難点になります。しかし、多くのラーメン屋で和食、洋食、様々なものを食べられることは豪州の特徴で、ラーメン屋で豪州名物ラムチョップ等もオーダー可能です。他にも多民族国家の豪州では、ハラルラーメンやグルテンフリーラーメンと様々な方がラーメンを楽しめるようになっていることも良いですね。

また、物価高の豪州では、日本ラーメンの代替品として、フォー(ベトナム料理の平たい米粉麺)、ラクサ(香辛料が効いた東南アジアの麺料理)、ハーミー(エビから出汁をとったスープのマレーシアヌードル)を食べることが多いです。ココナッツ風味のラクサが大好きな当チームは、全員で紙ナプキンを首にかけ、音ナシで一生懸命麺を吸ります。昼食後はディーリングルームがココナッツ臭に覆われます。ただ、ハーミーの魚介の匂い(臭い)は強烈なようで、ハーミーを食べるときはキッチンで食べます。詳しく言うと、過去にデスクでハーミーを食べて、周囲から反感を買ったことがあります…。

最後に、部員募集します。ラーメン部に興味ある方、ラーメン情報をお持ちの方、ご連絡下さい。只今、部長、部員、シェフ(!?)を募集中です！

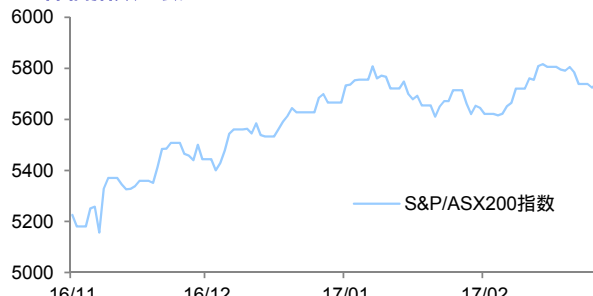
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
2/2	貿易収支	12月	AS\$2000M	AS\$3511M	AS\$2040M
2/2	建設許可件数[前月比]	12月	▲1.5%	▲1.2%	7.5%
2/6	小売売上高[前月比]	12月	0.3%	▲0.1%	0.1%
2/7	RBAキャッシュレート		1.5%	1.5%	1.5%
2/10	住宅ローン申請件数	12月	1.0%	0.4%	1.3%
2/14	NAB企業景況感 / 信頼感	1月	-	16 / 10	10 / 6
2/16	雇用者数	1月	10.0千人	13.5千人	16.3千人
2/16	失業率	1月	5.8%	5.7%	5.8%
2/21	RBA議事録				
2/23	民間設備投資	10-12月	▲0.5%	▲2.1%	▲3.3%

カナダドル相場

予想レンジ: USD/CAD 1.3160 ~ 1.3460
CAD/JPY 84.60 ~ 87.38

米州資金部 光野 由貴宏

■ 先月の為替相場

先月のドル/カナダドルは、主に1.31を挟んで方向感に欠く推移となったが、月末に急上昇する展開。

ドル/カナダドルは1.3040でオープン。月初は、米1月ADP雇用統計が予想を大きく上回り、米1月ISM製造業景気指数も5か月連続の上昇となったことから1.3102まで上昇した。その後、トランプ米政権からのドル高けん制発言などもあり、貿易戦争への懸念などから米金利が低下する動きにドル売りが優勢となり、ドル/カナダドルは下値を試す動きに月安値の1.2981まで反落した。しかし昨年9月以来となるこの水準ではドル買い意欲も強く、米1月雇用統計で非農業部門雇用者数変化が予想を大きく上回ったことから一旦1.3083まで上昇した。その後はフランス大統領選で極右政党党首が当選する懸念が高まり、リスク回避の動きが強まったことや、WTI原油相場が大幅に下落したことから、ドル/カナダドルは1.3212まで上昇した。月中は、米週間石油在庫統計で在庫減が明らかになり、WTI価格が反発したことで、ドル/カナダドルは1.31台前半まで反落した。その後もOPEC加盟国による協調減産の順守率が高水準となったとのニュースも伝わり、カナダドルのサポート材料となった。10日に発表されたカナダ1月雇用統計では、雇用ネット変化率が予想を大幅に上回り、失業率も予想を下回ったことからカナダドル買いが強まり、ドル/カナダドルは一時1.3063まで下落した。トランプ米大統領とトルドー首相の会談では、特段目新しい材料は出なかったものの、その後行われた記者会見では両国の良好な関係を維持し、通商政策も微調整に止まる見通しと伝わると、アメリカのカナダに対する通商政策面での懸念後退にカナダドル買いが優勢となり、ドル/カナダドルは1.30台前半まで下落した。月末は、イエレンFRB議長から上下両院での議会証言で「利上げを待ちすぎるのは賢明ではない」とのタカ派な発言が出たことや、堅調な米経済指標を受けて米金利上昇とともにドル/カナダドルはじり高推移となり1.31後半まで上昇した。その後も、ダドリーNY連銀総裁から「利上げを後押しする証拠は強まっている」との発言もあり、米金利上昇を受けてドル買いが強まり、月高値の1.3314まで上昇し、1.3301でクローズした。

■ 今月の見通し

今月のドル/カナダドルはレンジ内での推移を予想。

先月のドル/カナダドルは方向感の出るような目新しい材料はなく、月初に1.30を下抜けすることもあったが、主に1.30から1.32前半での狭いレンジの推移となった。今月の注目イベントとしては3月1日のカナダ中銀(BOC)の金融政策決定会合、14~15日のFOMC、トランプ大統領の予算教書演説などとなるが、ドル/カナダドルにとっては次の理由から強弱混在の材料となり、引き続きレンジ内での推移を予想する。月初のBOCの金融政策決定会合では、1月の会合以降発表されたカナダ11月GDP、カナダ1月雇用ネット変化率などの重要経済指標が市場予想を上回ったこともあり、前回会合ほどのハト派なスタンスになるとは考えづらい。また、ボロズBOC総裁が懸念していたアメリカ、カナダ間の貿易も、トランプ大統領とトルドー首相の会談が良好であったことから、当面の両国の通商政策が大きく変化することは無いと思われる。これはカナダの経済見通しにとってはどちらかといえばプラスの材料となると予想され、カナダドルをサポートするだろう。一方で、月半ばのFOMCは市場のコンセンサスでもある6月会合での利上げに向けてのタカ派なスタンスを強調すると予想。FOMC主要メンバーからは年3回の利上げを示唆する発言が多数出しており、当局が強調するゆっくりとした利上げペースを実現させるにあたって、3月会合では足許では36%しか利上げが織り込まれておらず、ここで利上げをすることは難しい。しかし、6月会合まで利上げを待つと景気拡大に乗り遅れてしまうため、5月会合での利上げを見込む動きも多い。そのため、3月FOMCがタカ派な内容になればドル買いが強まる可能性が高い。なお、トランプ大統領の政府予算については減税など米経済を活性化させる政策などもある反面、キーストンパイプラインなどカナダ経済にとっても有益なインフラ投資などもある。カナダは米経済に輸出の大部分を頼っているため、米経済拡大はカナダにとっても有益であり、トランプ政権の経済政策はドル/カナダドルには特段影響しないと予想する。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地のラーメン(ヌードル)事情』

ここ数年、トロントではラーメンブームが起きているのか、気が付けば色んな所でラーメン専門店を見るようになりました。鉄は熱いうちに打てとはよく言ったもので、近頃では居酒屋や普通の日本食店でもブームに乗っかり「ラーメンあります!」の看板を出している所が多くあります。やたらメニューの多い飲食店の味はイマイチという勝手な偏見からそういった場所でラーメンを食べたことは無いのですが、ダウントウンにあるラーメン専門店にはラーメン好きの現地人と何件か訪れたことがあります。

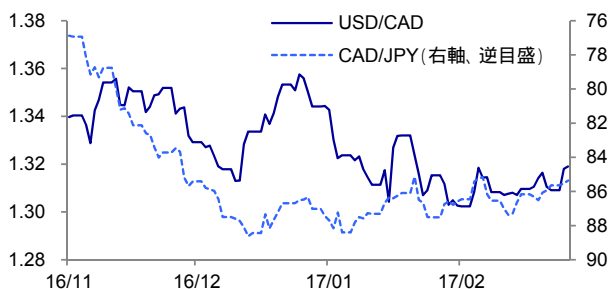
個人的に美味しいと思ったのはDandus St.沿いにある山頭火と三草亭です。スープはコクのあるあっさりとした味、量は少なめでDinnerとして行くことちょっと物足りないのですが、飲んだ後のシメには最高です。どちらともあまりお店が大きいのでタイミングを見計らわないと並ぶことになりますが、...

チャイナタウンの近く、Baldwin St.沿いにも2件ほどラーメン屋があり、そのうちの1つはトロントのラーメンブームの火付け役であるKintonラーメンです。こちらのラーメンは麺の太さ・種類、ベースの出汁、背油の量、チャーシューの種類などが選べて、より多くのお客さんに楽しめるようになっています。多くの人から支持され人気のお店ですが、私は一番あっさり味を注文しても胃がもたついたという経験があり、2、3回行った後リピーターはしていません。

トロントのラーメン店全てで共通して言えることといえば、高い値段でしょうか。ラーメン一杯は平均12ドルほどで消費税やチップを勘定すると結局15ドルから20ドルくらいになってしまうというのが少し残念なところ。同じ位美味しくて心から温まるベトナムフォーは単価6.50ドル位なのに...。ゆえにラーメンを食べることはトロントではラグジュアリーです。(カナダ支店 那須 絃子)

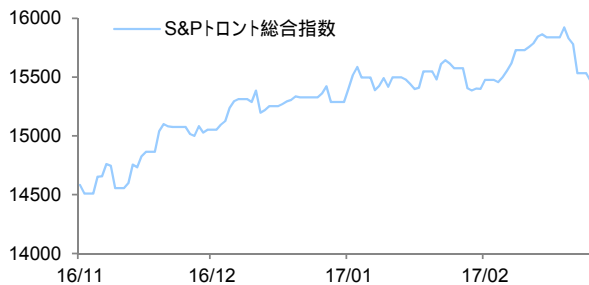
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
2/1	マクミット カガ 製造業PMI	1月	--	53.5	51.8
2/8	住宅着工件数	1月	197.3k	207.4k	207.0k
2/9	新築住宅価格指数(前月)	12月	0.20%	0.10%	0.20%
2/10	失業率	12月	6.90%	6.80%	6.90%
2/10	雇用ネット変化率	1月	-10.0k	48.3k	53.7k
2/15	製造業売上高(前月比)	12月	0.30%	2.30%	1.50%
2/22	小売売上高(前月比)	12月	0.00%	-0.50%	0.20%
2/24	消費者物価指数	1月	1.60%	2.10%	1.50%

韓国ウォン相場

予想レンジ:

USD/KRW	1095	~	1155
KRW/JPY	9.71	~	10.10
JPY/KRW	9.90	~	10.30

(注)100韓国ウォンあたりの対円レート

ソウル資金室 山口 智裕

■ 先月の為替相場

2月のドル/ウォンは下落。揉み合いつつも、じりじりと下げ幅を拡大する展開となった。

1月末に、トランプ大統領が中国と日本に関して、「通貨安政策を採っている」と批判。また、ナバロ国家通商会議(NTC)委員長がFT紙のインタビューで「ドイツは著しく過小評価されたユーロを利用している」と指摘した。これを受けて月初1日のドル/ウォンは前月末比▲12.1ウォン高の1150.0で取引を開始後、同日には月高値となる、1158.6をつけた。2日、FOMC後に米金利が低下したことや、3日の米雇用統計で平均時給が市場予想を下回ったことを受けて、週明け6日のドル/ウォンは1135台まで下げ幅を拡大した。

しかし、フランス次期大統領選候補のスキャンダルを受けて、週末発表された世論調査で当該候補者の支持率が低下したことや、トランプ大統領の移民政策を巡る混乱が継続したことを受けてリスクセンチメントが悪化。9日には、トランプ大統領が2〜3週間以内に驚異的な(Phenomenal)税制改革を発表する」と述べたことを受けて、ドルが上昇。かかる中、ドル/ウォンは1154台まで下げ幅を縮小した。

10〜11日の日米首脳会談では、為替や米国の対日貿易赤字にはほば言及されず、無難に通過したことから週明け13日にはドル/円が上昇。しかし、14日の韓国時間午後、フリン米大統領補佐官がロシアの制裁に関する密約疑惑を巡り辞任したとの報道やFT紙の「為替操作国は中国や日本ではなく、韓国と台湾、そしていくつかの点でシンガポールである」との記事が材料視され、ドル/ウォンは再度下げ幅を拡大。イエレンFRB議長の「緩和解除を待ちすぎるとは懸命ではない」との発言がややタカ派と受け止められたものの、米国株式市場が史上最高値を断続的に更新する中、ドル/ウォンは16日の朝方には1133.0まで下落した。その後も、フランス大統領選を巡る不透明感が継続したことから、ドル/ウォンは再度1150台まで戻す場面もあったものの、22日に公表されたFOMC議事録が3月利上げを強く示唆するものでなかったことやトランプ大統領の政策に対する期待感が後退したことなどから下げ幅を拡大。24日には月安値となる月安値となる1127.6まで下落した後も上値重く推移し、前月末比▲16.8ウォン高の1130.7で引けた。

■ 今月の見通し

3月のドル/ウォンは上値の重い展開を予想する。

足許、トランプ大統領の政策や早急な米金融引締めに対する過度な思惑が後退しており、2月後半には韓国への資金流入が増加している。斯かる状況下、2月28日のトランプ大統領の議会演説や3月15日のFOMCに注目したい。経済政策内容や、FOMC後の声明文、メンバーの政策金利見通し(ドット・チャート)の内容によってはドル高となる可能性もあるが、具体的な政策の発表がない場合や引き続き利上げを急ぐものでなければ、ドル/ウォンは下落が継続すると思われる。

朴大統領の弾劾裁判に関しては、憲法裁判所は李裁判官の任期満了後となる3月13日までに結論を出したい考えを明らかにしている。一方、朴大統領側は2月27日の弁論で訴追内容を否定。また、チェ被告の元側近の録音ファイルの検証を求めたことに加え、裁判官が9人そろうまで待つべきだと訴え、結論を引き延ばす姿勢を示している。

特別検察は、国民感情を背景にサムスン電子の李副会長の逮捕に踏み切り、収賄罪で起訴、朴大統領の収賄共謀罪を認定した。ただし、起訴内容の半分であるセウォル号事件の「空白の7時間」については捜査を断念しているほか、ファン首相が捜査延長を認めなかったため、朴大統領に関して直接の捜査は全く出来ていない。

このような状況ではあるものの、結局のところは証拠や法律よりも国民感情が優先される国であることから、3月13日までに結論が出る場合は大統領が罷免となる可能性が相応に高いと思われる。また、この場合、5月に大統領選が予定され、3月後半からは財政拡大策や金融緩和に対する思惑が強まる可能性もあるため、注意したい。

■ 今月のつばやき(現地からの声)

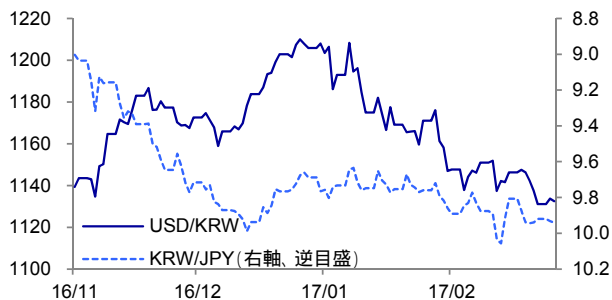
『当地のラーメン(ヌードル)事情』

当地でラーメンというと、基本的にはインスタントラーメンです。世界ラーメン協会調べ(2015年)では、1人あたりの年間インスタントラーメン消費量は韓国が70.9食と2位のインドネシア(51.8食)に大差をつけて1位です。韓国系の店でラーメンを頼むとインスタントラーメンが出てきますし、ディールングルームで昼ごはんはインスタントラーメンを食べている人をよく目にします。

ただし、インスタントの消費量が多いからといって、日本のラーメンと親和性が高いかといわれると全くそんなことはないです。当地のラーメンは独自の進化を遂げており、日本人からするとただ辛いだけで味に深みのないラーメンが多いです。韓国人からすると、日本のラーメンは塩辛いらしく、ぜんぜんおいしくないそうです。こちらに着任後、様々な店で食べましたが、韓国人に人気があるもので個人的においしいと思えるラーメン屋はあったとしても早晚撤退しているイメージがあります(韓国に住んでしばらくすると多少おいしく感じるようにはなりますが)。

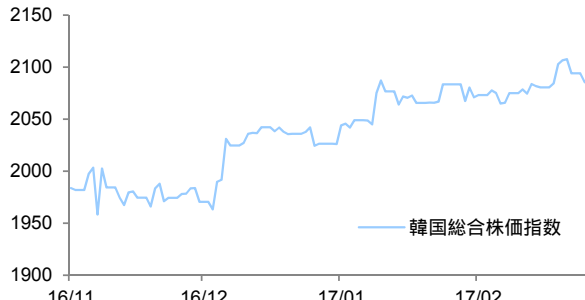
■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
2/1	鉱工業生産(季調済/前月比)	12月	0.30%	-0.50%	3.40%
2/1	輸出(前年比)	1月	9.00%	11.20%	6.40%
2/1	貿易収支	1月	\$5310m	\$3196m	\$7003m
2/1	日経韓国製造業PMI	1月	--	49	49.4
2/2	消費者物価指数(前年比)	1月	1.50%	2.00%	1.30%
2/15	失業率(季調済)	1月	3.50%	3.60%	3.40%
2/21	輸出 20日間 前年比	2月	--	26.20%	25.00%
2/21	韓国国家計信用	4Q	--	KR1344.3t	KR1295.8t
2/23	韓国銀行7日間レートの		1.25%	1.25%	1.25%
2/24	消費者信頼感	2月	--	94.4	93.3

台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 30.30 ~ 31.50
TWD/JPY 3.56 ~ 3.75

台北資金室 三浦 勇二

■ 先月の為替相場

2月のドル/台湾ドル相場は、ドル安台湾ドル高。

春節休暇期間中のドル下落を受け、連休明け2/2のドル/台湾ドルは、31.250と大きく値を下げたオープン。その後もドル売り台湾ドル買いが優勢となり、一時31.020と、2015年7月以来の安値をつける場面もみられた。翌2/3もドル安の流れは変わらず、節目となる31ちょうどを割る展開。

2/3NY時間朝方に発表された米1月雇用統計では、非農業部門雇用者数が22.7万人増と市場予想を上回ったものの、平均時給の伸びが鈍化したことから、発表後はドル安に。これを受け、翌週2/6のドル台湾ドルは30.900と値を下げ取引を開始。その後も株式市場が堅調に推移する中、外国人投資家の株式買い越しも膨らみ、上値の重い推移となったが、2/9海外時間のトランプ米大統領の「2～3週間以内に税措置に関する驚異的な発表を行う」との発言を受けたドルの上昇から、2/10には一時31.1台を回復。しかしながら、ドル買いの流れは長続きせず、輸出企業の台湾ドル買いフローなどから再びドル/台湾ドルは軟調な推移となった。

月後半に入ると、2/10～11の日米首脳会談で為替政策に対し直接的な批判が出ず、ドルインデックスが上昇したことを受け、いったんは31.095まで上昇するも、堅調な株価を背景に株式市場への外国人投資家の資金流入が加速し、イエレンFRB議長の議会証言でのタカ派的な発言を受けてドルインデックスが上昇する中であっても、台湾ドル買いが優勢な展開が続き、30.660まで下落。台湾ドルの強さが際立つ形となった。なお、2/13～18の週間の外国人投資家の株式買い越し額は290億台湾ドルとなり、この週の台湾ドル上昇の大きな要因となった。

月末にかけては株高が一服するも、輸出企業の実需のフローも増え、ドル/台湾ドルは軟調な地合いが続き、最終的に30.650でクローズ。

■ 今月の見通し

3月のドル/台湾ドル相場は、ドル安台湾ドル高基調の継続を見込む。

2月に発表された台湾の経済指標をみると、輸出が前年比+7.00%増と4か月連続の増加。春節の連休による営業日数減の影響を受け、前月の同+14.00%増から増加幅は縮小したものの、2016年後半から続く電子部品の需要増加を受けて好調な輸出が継続している。台湾財政部は、2017年は前年よりも世界的に景気が上向くとみている一方、トランプ政権の保護主義強化姿勢や、中国国内でのサプライチェーン構築などが不安材料と指摘している。また、台湾経済部が発表した輸出受注は6か月連続のプラス。液晶パネルの市場価格上昇を受けて、在庫積み増しの動きが強まっている。

3月の注目材料は米国の金融政策ならびに、トランプ政権と台湾の株式市場の動向。足許、FRB高官のタカ派的な発言がみられているものの、先物市場での3月FOMCにおける利上げの織り込みは進んでいないことに加えて、トランプ政権による大規模な財政政策に対しては、その遅延リスクが懸念され始めている。さらに、3月から立て続けに行われるユーロ圏主要国の選挙に対する先行き不透明感も広がっている中、米2月雇用統計をはじめとする重要経済指標が強い結果となり、利上げ期待が急速に進むといったことがない限りは、ドル高基調とはなり難い。

一方、トランプ政権による減税政策に遅れが生じれば、期待先行で上昇してきた株の調整が見込まれる。台湾の株式市場で年初から大きく膨らんできた外国人投資家の資金流入が流出に転じれば、ドル買い台湾ドル売り要因となることから、ドル/台湾ドルが一方的に下落する展開にはなり難いと思込まれる。

なお、台湾では3月下旬に、四半期に一度の金融政策決定会合の開催が予定されている。政策金利の現状維持が見込まれており、相場への影響は限定的か。

■ 今月のつばやき(現地からの声)

『当地のラーメン(ヌードル)事情』
もともと日本食で溢れる台湾ですが、ラーメン店の競争は近年、より一層激化しております。一昔前は日本のラーメン店の屋号を掲げていても、味やサービスはいまひとつという店が多かったようですが、ここ数年、日本の味付けをそのまま再現したラーメン店が続々と出店を果たしており、人気店では連日行列ができております。特に台北では、食べログランキングで上位にランクインしている麵屋一燈や博多一幸舎まで出店しており、ラーメン好きを満足させています。

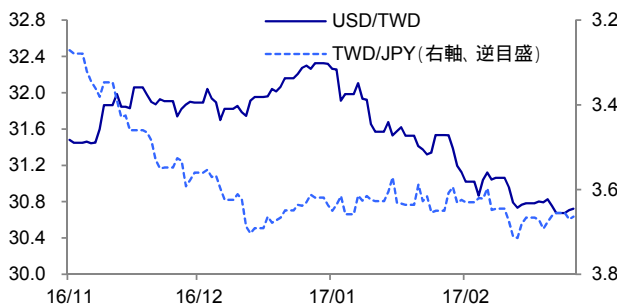
しかしながら、台湾人がラーメンに対して持っているイメージは必ずしも日本人のそれとは一致しません。日本の場合、ラーメン店はカウンターがあり、一人でも気軽に入店でき、値段も手頃というイメージがありますが、台湾では、一杯200台湾ドル以上もするラーメンは決して安いものではありません。また、グループで来店することが多い台湾人にとっては、カウンター席よりもテーブル席が重宝されています。

数か月後には、ミシュラン1つ星を獲得しているラーメン店「蔦」が台北でオープンを予定しております。すでにラーメン店供給過多気味の中、今後ますます競争が激しくなることが予想されます。

なお、名古屋を中心に知られている「台湾ラーメン」は台湾人店主がつくったことから、この名になったということで、台湾にはこうしたラーメンはございません。

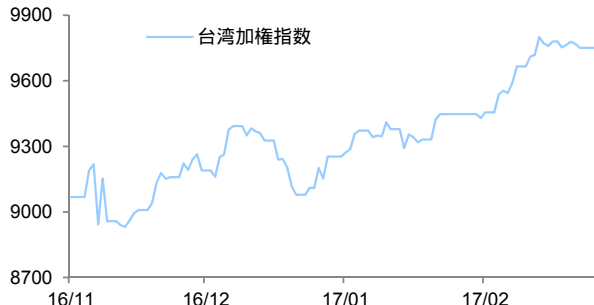
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
2/7	輸入(前年比)	1月	10.40%	8.40%	13.20%
2/7	輸出(前年比)	1月	8.00%	7.00%	14.00%
2/7	貿易収支	1月	3.67B	3.50B	4.86B
2/8	CPI(前年比)	1月	2.02%	2.25%	1.70%
2/15	GDP改定値(前年比)	Q4	2.60%	2.88%	2.58%
2/20	輸出受注(前年比)	1月	7.40%	5.20%	6.30%
2/20	経常収支	Q4	-	18.30B	17.09B
2/23	鉱工業生産(前年比)	1月	2.95%	2.77%	6.25%
2/24	失業率	1月	3.80%	3.84%	3.82%

香港ドル相場

予想レンジ: USD/HKD 7.7577 ~ 7.7700
HKD/JPY 14.30 ~ 14.80

香港資金部 Ken Cheung

■ 先月の為替相場

【2月の香港ドル直物相場】

米ドル／香港ドルは一時7.76を超える水準まで香港ドル安が進行した。米ドルが底堅く推移したにも関わらず人民元安センチメントが緩和したこと、一部の地場企業からオフショア人民元を買い戻す動き（香港ドル売り／オフショア人民元買い）が散見され、香港ドルの下落に拍車をかけた。また、堅調な香港株式も香港ドル市場への資金流入に繋がり、香港ドル金利低下から香港ドル安の流れを継続させた格好。米ドル／香港ドルフォーワード1年物は、決算期前の季節的要因による調達需要から、前月の▲100ポイント水準から更にマイナス幅が拡大する局面も見られたものの、足許の米国利上げ見通しやオフショア人民元市場の流動性状況が落ち着いていることなどから、総じて先物市場は安定して推移している。

【2月の香港ドル金利市場】

香港ドル金利は流動性が引き続き潤沢であることや、米利上げ期待が高まらなかったことから、安定的に推移した。香港金融管理局（HKMA）は潤沢な流動性の維持を企図し、為替基金短期証券の残高を維持したことから、インターバンク市場の流動性を図る指標であるHKMAの当座預金残高は5か月連続で2,600億香港ドル程度となった。短期の指標金利であるHIBOR3か月物は、前月の1.0%水準から小幅に低下し、0.95%水準で推移。HIBORとLIBORの3か月物の金利差は、足許の潤沢な香港ドルの流動性状況を反映し、引き続きHIBORがLIBORを下回って推移している。長期ゾーンについては、将来的な米国の利上げが香港から米国への資金流出を招くのでは、との見方を反映し、3年物金利については香港ドル金利が米ドル金利を上回っている。香港ドルのベシススワップ金利の10年物は、2月央に債券発行に係るフローから一旦縮小したものの、その後は前月末と同水準となった。

【2月の香港株式市場】

ハンセン指数は堅調な米国株式の流れも相俟って、24,000を超える水準まで上昇した。トランプ米大統領による他国の通貨政策に係る過激な発言は身を潜め、徐々に期待感も剥落しつつあることから、エマージング株式市場への資金回帰が生じている模様。加えて、中国本土における資本流出圧力に係る規制が強化されているため、代替策として中国本土の投資家が中国・香港間の相互株式取引制度を利用し、香港株式市場への投資を増やしている模様で、こうした資金フローも香港株の下支えとなった。

■ 今月の見通し

【3月の香港ドル直物相場】

米ドル／香港ドルの取引レンジは、FRBによる3月利上げの可能性が燃る中、7.7577から7.770となり香港ドルは弱含むと予想する。今後、人民元安売りの勢いが鈍り、前述の香港ドル売り／人民元買いのフローが残存すると考えられることも、香港ドルの下押し材料になると見ている。また、地場の投資家はオフショア人民元預金から香港ドル預金への振替に以前ほど躍起になっておらず、香港ドル買いの動きは弱まると見込む。なお、3月26日に実施される香港の行政長官選挙に注目が集まっているものの、結果の如何に関わらず、米ドルとのペッグ制及び香港の金融ハブとしての地位は新政権下でも劇的な変化はないと考えられるため、市場への影響は限定的なものにとどまると予想する。むしろ今後のリスクとして、トランプ政権下における米中関係の悪化や貿易戦争への発展であり、これらが激化すれば香港ドル市場からの資金流出につながる事が挙げられる。

【3月の香港ドル金利市場】

米ドルとのペッグ制の下、香港ドル金利は米金利が上昇した動きに追随し、徐々に上昇していくと見込む。短期ゾーンについては、足許香港ドル市場の流動性は潤沢な状況が継続していることから、安定して推移すると見込む。長期ゾーンについては、米国のインフレ圧力の高まりなどから、上昇傾向にある米金利に追随し、香港ドル金利も徐々に上昇する展開を想定。香港ドル及び米ドルの金利差については、米国の利上げ見通しを受けた香港市場からの資金流出が継続し、香港ドル金利の上昇ペースを速め、香港ドル金利が米ドル金利を上回って推移する状況が継続すると見込む。但し、オフショア人民元の流動性状況の変化やオフショア人民元預金残高の縮小などが、香港ドル金利を思わぬ下落させる可能性には留意したい。

■ 今月のつばやき（現地からの声）

『当地のラーメン（ヌードル）事情』

香港には、おいしいローカルフードがたくさんありますが、今回はラーメン（ヌードル）事情ということで、数ある中から人気のものをご紹介します。

【Beef hor fun】

香港で最も人気のあるローカルヌードルで、牛肉と米粉で作ったRiceNoodle（ビーフンのような細打ちの乾燥麺）、豆もやしを強い火力で一気に炒め合わせる料理です。多くのローカレストランで食べることが出来ます。

【Cart Noodle】

香港には、道沿いに屋台のようなお店が数多く並んでおり、その場で食べることが出来るのがCartNoodleです。肉や野菜などのトッピングはもちろん、麺やスープも選ぶことが出来、自分だけのオリジナルラーメンを作る事が出来ます。

【Yu dan Noodle／Wonton Noodle】

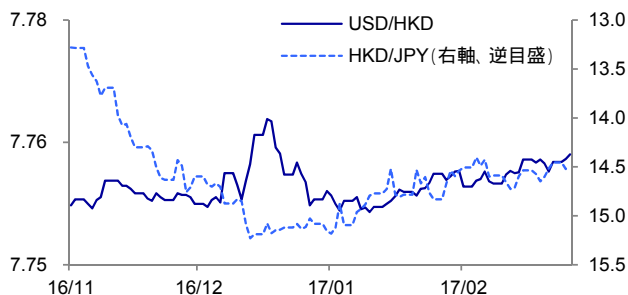
Yudanとはつまみれ団子のことで、Wontonはご存じワンタンのことです。双方ともに、ヌードルの上にトッピングしていただくのですが、Yudanの麺はRiceNoodle、Wontonの麺はEggNoodle（卵麺）を使います。

【TamJai Samgor Mixian】

香港の若者に人気のヌードルで、雲南麺というRiceNoodle（太さはあるがコシがありません断面が丸い麺）を使っています。スープの辛さも10段階から調整することが出来、一度は試していただきたい一品です。

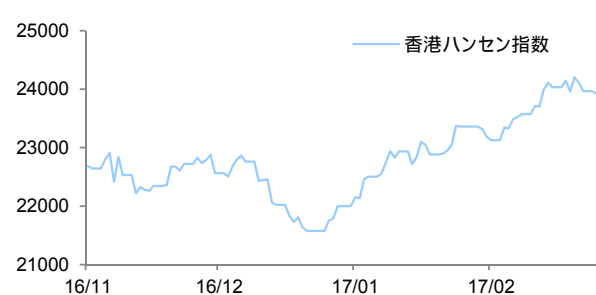
■ 為替の動き

（資料）ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

（資料）ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

（資料）ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
2/3	日経香港PMI	1月	--	49.9	50.3
2/3	小売売上高（価格、前年比）	12月	-4.9%	-2.90%	-5.40%
2/3	小売売上高（数量、前年比）	12月	-5.0%	-2.80%	-5.50%
2/7	外貨準備高	1月	--	\$391.5b	\$386.2b
2/17	総合利率	1月	--	0.32%	0.31%
2/20	失業率（季調済）	1月	3.30%	3.30%	3.30%
2/21	CPIコンボジット（前年比）	1月	1.60%	1.30%	1.20%
2/22	年間GDP（前年比）	2016	1.70%	1.90%	2.40%
2/22	GDP（前年比）	4Q	2.00%	3.10%	2.00%
2/22	GDP（季調済、前期比）	4Q	0.70%	1.20%	0.80%

中国人民元相場

予想レンジ:	USD/CNY	6.7500	~	7.0500
	CNY/JPY	15.32	~	17.19
	100JPY/CNY	5.8700	~	6.5274

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 上城戸 千尋

■ 先月の為替相場

【為替相場】

2月のドル/人民元相場は6.85～6.90のレンジ内で上下する展開。旧正月休暇(1/27～2/2)明けのドル/人民元実勢相場は、休暇前の水準から約160pipsドル安人民元高の6.86台半ばでオープン。6日には仏大統領選挙について、極右政党候補当選に対する警戒感が強く意識されてユーロが軟調に推移しドルが上昇。7日に発表された中国1月外貨準備高は心理的節目となる3兆ドルを割り込むも市場への影響は限定的であったが、ドル高の動きにつれてドル/人民元は6.89付近までドル高人民元安方向に進んだ。その後ドル高の流れは一服し、ドル/人民元は6.86付近まで人民元高方向に戻した。9日にトランプ米大統領が大規模な税制改革を発表すると発言したことをきっかけに再びドル高の地合いに。ドル/人民元も6.89付近までドル高人民元安となった。14日のイエレンFRB議長の議会証言はタカ派の内容と受け止められ、ドルが全般的に一段と上昇したが、中国当局の金融引き締めスタンスが明確となる中で、ドル/人民元は実需フローを受けて6.85台半ばまでドル安人民元高方向に推移。月下旬では再び欧州政治リスクや米国の3月利上げの可能性が意識されドル高基調となると、ドル/人民元もドル高人民元安方向へ推移。2月を通してレンジ内で上下する方向感の無い推移となった。

【金利相場】

当局の金融政策スタンスが引き締め方向へ転換したことが明確となる中、カーブ全般で金利上昇が継続。春節明け3日、実施された公開市場操作および常設貸出ファシリティー(SLF)の金利が引き上げられた。また、2016年1月から毎営業日実施されていた公開市場操作が6営業日連続で見送られた。その影響からタム物を中心に資金ニーズが強く、金利は上昇。加えて、春節前の資金需要に対応すべく中資系大手行に実施された臨時流動性支援の期日到来に関する警戒感が一時強まり、金利が一段と上昇。月後半には中資系大手行からの資金放出が細る中、月末越えの資金ニーズから金利は上昇した。

■ 今月の見通し

【為替相場】

3月のドル/人民元相場は、安定した推移を予想。3月5日より全国人民代表大会(全人代)が開催される予定(開催期間は10日前後)。全人代ではGDP等の主要指標の目標値や2017年の経済政策が決定される予定だが、今年の秋に予定されている5年に一度の党大会に向けて経済を堅調に保つべく、積極的な財政政策などがとられることが想定される。中国経済の安定化への期待や、金融政策引き締めスタンスの継続が人民元高の材料となり得るだろう。一方、トランプ政権が3月中旬以降に公表する予定の税制改革案については、内容次第でドル高・ドル安両方向に動く可能性がある。また、3月のオランダ下院議会選挙、英国のEU離脱通知、4月の仏大統領選挙関連で欧州政治リスクが意識されれば、ユーロが不安定となり、ドル高の地合いから、ドル/人民元もドル高人民元安となる場面も考えられる。しかし、中国当局は為替の安定を目指しており、全人代が実施される3月は、一方的に人民元安へ推移することは避けたいという当局の意向が相場に反映されると思われる。

【金利市場】

金利上昇圧力がかかりやすい状況が継続すると予想。当局が金融政策スタンスを引き締め方向へ転換したことは明確であり、今後も継続する見込み。3月は四半期末ということもあり、資金需要の高まりから金利上昇圧力がかかりやすく、引き続き金利は高い水準で推移すると見られる。2月には一部金融機関に限定した預金準備率引き下げの噂が出るなど、これまで以上に当局が行う金融政策手段について注目が集まっている状況。全人代で決定されるマネーサプライなどの目標値にも要注目である。

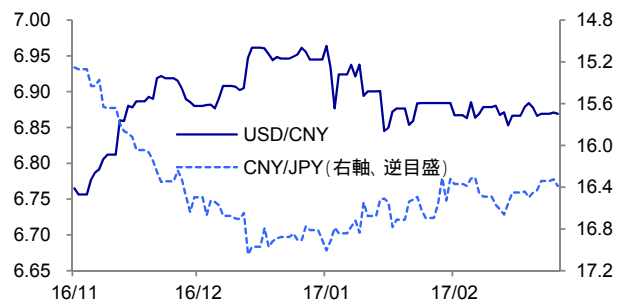
■ 今月のつばやき(現地からの声)

『当地のラーメン(ヌードル)事情』

ラーメンの語源は“拉面”(ラーメン)、“拉”は「長く伸ばす、引き伸ばす」と言う意味です。本場中国には様々なラーメンがありますが、“練った生地を引き伸ばす”という製法に拘らなければ、更に数は増えます。中国は広いので、お米をよく食べる東北地方よりも南の地域の方が麺類を食べる傾向にあるようです。代表的な麺をいくつか紹介します。まず、日本人にも馴染みがある“担担麵”。私がこれまで中国で食べた担担麵は、スープの辛味は強くなく、どちらかというとゴマが強い甘辛い感じのものが多かったです(上海の人が甘辛い味を好むからかもしれません)。現地スタッフおすすめの麺は“沙茶面”。廈門の代表的な麺で、ピーナッツソースと腐乳(豆腐を発酵させたもの)がスープのベースとなっている麺です。現地のローカル店で食べれば20元弱で食べることができるのですが、私も食べたことが無いので一度は試してみたい麺です。厳密なラーメンの定義から外れますが、私が好きな麺は“涼皮”。半透明で平たく幅があり、表面はつるつるとしてモチっとした食感の麺です。味付けはいろいろありますが、日本の冷麺のような具材と共に少しピリ辛で食べるのが代表的な食べ方だと思います。なお、上海では日本のラーメン店がいくつも出店しており、昨年にはラーメンアリーナもオープンしています。オフィスビルにも日本のラーメン店がありますが、ランチタイムには行列が出来ているので、日本のラーメンは本場中国でも支持されているようです。

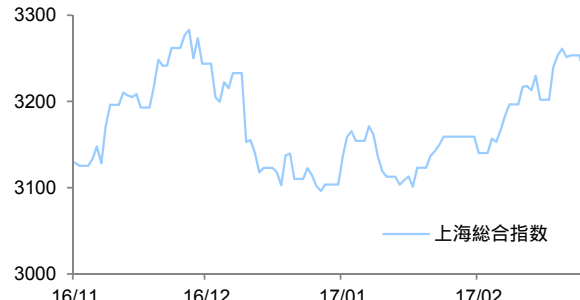
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
2/1	製造業PMI	1月	51.2	51.3	51.4
2/10	貿易収支(RMB建)	1月	307.25B	354.50B	275.40B
2/10	輸出(RMB建)(前年比)	1月	5.2%	15.9%	0.6%
2/10	輸入(RMB建)(前年比)	1月	15.2%	25.2%	10.8%
2/14	CPI(前年比)	1月	2.4%	2.5%	2.1%
2/14	PPI(前年比)	1月	6.5%	6.9%	5.5%

シンガポールドル相場

予想レンジ:

USD/SGD 1.3900 ~ 1.4350
 SGD/JPY 79.00 ~ 81.00

アジア・オセアニア資金部 鈴木 教子

■ 先月の為替相場

2月のシンガポールドル(SGD)相場は、比較的小幅レンジながらSGDが軟調推移。

1月30日にトランプ米大統領が移民入国制限令を発令したことを受けて、旧正月休み明けの薄い市場でSGDが買われ、月初は約2か月半ぶりのSGD高水準である1.41近辺でオープンした。1日のFOMCでは、事前予想通り金利は据え置き、声明文の内容も前回とほぼ変わらずで、3月利上げの手掛かりが得られなかったため、SGD底堅い値動きが継続。3日の米1月雇用統計は、非農業部門雇用者数は大幅増加するも、平均時給上昇率の鈍化が焦点となり、結局ドルが軟化した。

翌週6日は、米1月雇用統計発表後にドル安となった流れに沿ってSGDが買われ、1.40台後半をつけた。ところが海外市場で、仏大統領選における有力候補のフィヨン元首相が不正疑惑から支持率を落としたとの報道を受けて、EU離脱を主張する極右政党のルペン党首が勝利した場合の警戒感が強まり、リスク回避からSGDが反落した。7日もリスク回避の流れが続き、SGDは1.40台後半から1.41台後半へ大幅SGD安。9日には、トランプ大統領が近々減税案を発表すると述べたことでドルが上昇軒並み上昇し、SGD売りの流れが続いた。

第3週に入っても、米減税案への期待からドル高、米株高、米金利上昇の流れが続き、SGDも1.42台後半まで続落した。14日はアジア時間にプリン米大統領補佐官辞任の報でドルが下落したため、SGDも1.41台半ば近くまで反発したが、同夜、イエレンFRB議長が議会証言で、「利上げの先送りしすぎは賢明ではない。」と述べると、一転してSGDが急反落した。15日は米2月NY連銀製造業景気指数、米1月消費者物価指数(CPI)が良好だったことを受けてSGDは1.42台後半の月間安値をつけた。しかし翌16日は米2月フィラデルフィア連銀景況指数が1984年以来の高水準となったにも拘わらず、利食いが優勢となりドルは反落、米国株も頭打ちになり、米金利は低下した。17日も米3連休を控えたポジション調整でドル売りが継続。この流れの中でSGDは1.41台前半まで買い戻された。

第4週は、仏大統領選において極右政党のルペン党首の支持率が上昇したとの報道を受けてリスク回避が強まり、21日にSGDが1.42台前半まで反落した。しかし、22日発表のFOMC議事要旨で3月利上げの手掛かりが得られなかったことでポジション調整のSGD買いが入り、1.39台後半をつけて3か月半ぶり高値を更新している。

■ 今月の見通し

3月のシンガポールドル(SGD)相場は、米国の金融政策、トランプ政権の経済政策、欧州の政治動向などに注視しつつ、SGD軟調基調でのレンジ取引を予想。

トランプ大統領の減税策や、インフラ投資などに対する期待感がドルの下値を支えるほか、15日のFOMCで利上げ期待が高まりつつある。また欧州では、15日のオランダ総選挙、4月の仏大統領選挙、英国のEU離脱手続着手などに向けてリスク回避の流れが強まる可能性もある。この様に国外要因ではSGD安材料が多く、SGD安に振れるリスクがあるが、トランプ政権の政策への期待や米利上げについてはすでに期待先行でドル買いが進んで来たことから、年初につけたSGD安値も限られそうだ。

国内要因でも、4月のシンガポール金融管理局(MAS、中央銀行)による通貨政策見直しが近づくにつれ、思惑先行でSGD安となる可能性がある。トランプ大統領の保護主義的な通商政策が対米輸出依存度の高いシンガポール経済にとって打撃となることなど、経済への下振れリスクを理由に、より緩やかな通貨政策にシフトするとの思惑が広がる可能性があるからだ。しかし、足許CPIが上昇に転じ、デフレ懸念が和らいでいることや、SGD名目実効レートの切り下げや政策バンドの拡大は金融危機などによりボラティリティが急上昇した危機時における対応であることから、実際にMASが緩和的政策へシフトする可能性は低いと見る。

■ 今月のつばやき(現地からの声)

『当地のラーメン(ヌードル)事情』
 シンガポールのラーメン事情は、値段を別にすれば、とても充実しています。

ジャカルタからここシンガポールへ異動してきた私としては、唯一、良かった点と言えるかもしれません。

ジャカルタも近年、ラーメン産業は発展していて、日本人好みの日式店が増えてはいるものの、その充実具合は、やはりここシンガポールの圧勝でしょう。

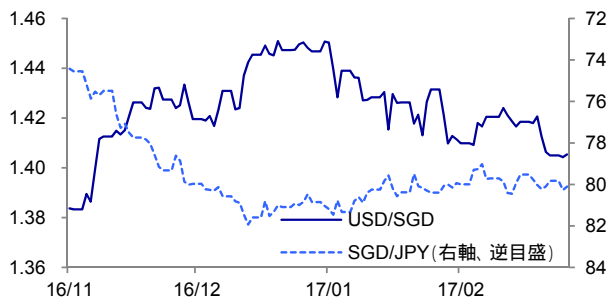
街のあちこちに存在する日本の有名ラーメン店のシンガポール店、空港内にある複数の有名ラーメン店が入店しているラーメン複合施設。

ある休日、家族5人(1人は赤子)でラーメン店で昼食を取った時のこと。1人1杯のラーメンとシェアできる餃子、加えてソフトドリンクを注文して、SGDで100ドル(≒8,000円)超、、、気軽には行けないと痛感させられました。

ジャカルタ時代、飲み会の後、午前0時過ぎに、締め飯で通っていたいつものラーメン店の担担麺をなつかしく思う今日この頃です。(河合良介)

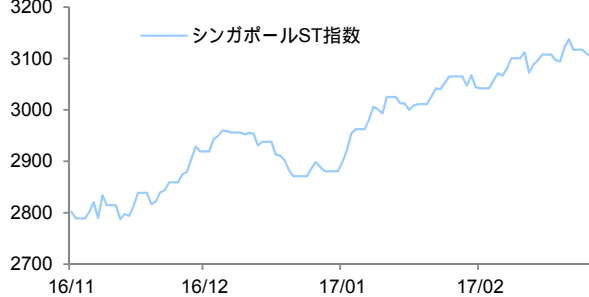
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
2/2	購買部景気指数	1月	50.5	51.0	50.6
2/2	電子産業指数	1月	-	51.8	51.2
2/15	小売売上高(前年比)	12月	-1.9%	-1.9%	0.0%
2/17	GDP(前年比)	4Q	2.5%	2.9%	1.8%
2/17	非石油輸出(前年比)	1月	9.6%	8.6%	9.1%
2/23	CPI(前年比)	1月	0.6%	0.6%	0.2%
2/24	鉱工業生産(前年比)	1月	9.5%	2.2%	22.1%

タイバート相場

予想レンジ: USD/THB 34.70 ~ 35.20
THB/JPY 3.10 ~ 3.28

バンコック資金室 山崎 浩幸

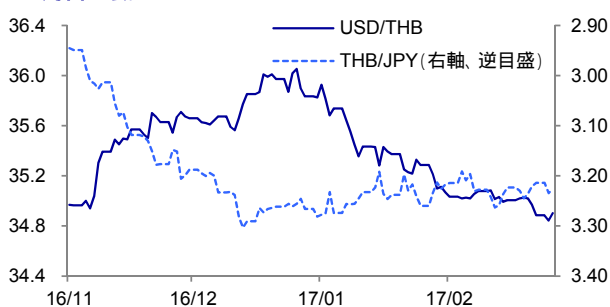
■ 先月の為替相場

1日、FOMCを控えてドル/バート35.10付近で推移。FOMCで、今後の利上げ見通しについて言及が無かった為じりりとドル安に反応。2日、タイ工業省工業経済事務局が発表した製造業指数が良好な結果であったため、35.05まで下落。3日、アピサック財務相による、政府プロジェクトに関する2017年度支出額に関する発言を受け、こもとのドル高けん制発言も相俟って上値の重い展開。その後、米1月雇用統計では、平均時給の悪化を背景に米金利が低下すると、一時35.02まで低下。週明け6日は、トランプ米大統領の通貨安批判を背景に上値が重く、35.00近辺での推移となった。翌7日も35.00付近での値動きが続き、8日、開催されたタイ中央銀行(BOT)の金融政策決定委員会では、政策金利(1.5%)の据え置きを全会一致で決定。バート高傾向について懸念が表明されると一時35.07まで上昇。しかし、海外時間に掛けて再び35.00まで値を戻した。9日引き続き35.00を睨みながら、連休を控えて動意に乏しい展開。ウイラタイBOT総裁によるインフレ率や為替介入に関して言及するも反応は限定的。海外時間にトランプ大統領が減税案に言及するとドル/バートは35.10手前まで上昇した。10日もその流れが継続する中で、アジア通貨は全般的に売り優勢となる中、35.05付近での値動きが続いた。

連休明けの14日、プリン米大統領補佐官辞任報道を受けてリスクオフとなり、11月以来ぶりに34.90台半ばへ下落。しかしその後イエレンFRB議長が上院銀行委員会での議会証言で、利上げに前向きな見方を示したことでドルが買い戻され35.00台を回復。翌15日～16日は35.00を挟んだ値動きが続いた。17日はトランプ大統領が前日の記者会見で景気刺激策の詳細を明らかにしなかったことや政権運営の不透明感の高まりなどを受け上値の重い展開が継続。週明け20日は34.90台後半で取引開始。タイの10～12月期GDPが発表されたが、前年比+3.0%(予想+3.0%)とほぼ予想通りの結果だったことから相場への影響は限定的。21日、BOTのMPC議事要旨(2月8日会合分)、FOMC議事要旨(1月31日～2月1日会合分)やムニューチン財務長官が「強いドル政策」を支持する姿勢を示すといった材料があったが、トランプ大統領の税制改革をめぐる発言待ちの中で、相場の反応は乏しく、35バート近辺でのレンジ相場が継続した。23日までは35.00付近での値動きが続いたが、23日から24日にかけてムニューチン財務省長官から、税制改革をめぐる発言がでなかったことなどをきっかけとして、税制改革への懸念の高まりから、リスクオフモードが強まり、月末にかけて34.80台へ下落。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク

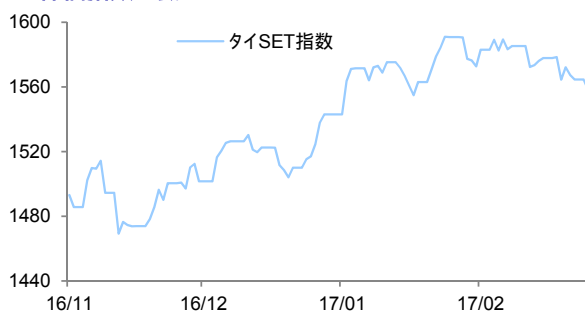


■ 今月の見通し

バートは引き続き、バート高傾向が継続するものと見込む。2月発表された、貿易収支・GDPの10～12月期実績は低調ながらも堅実な数字を確保しており、景気動向も中程度のレベルで安定推移している。BOTの政策金利のスタンスも安定していることから、ドル金利上昇に連れてタイの金利も上昇傾向にあり、引き続きタイへの資金流は安定的に推移すると見込んでいる。唯一の不安は政情不安等の経済以外の要因によるものであるが、こちらも現在軍事政権下ではあるものの、政府のスタンスは経済重視の姿勢を変えず、タイ国王ご崩御の後の政権運営・政策実施状況について、特段問題も見られず、今後も安定的に推移するものと見込まれる。国王ご崩御による服喪期間については、ご崩御後100日を越えて、徐々に通常モードに移行しつつある中、民間消費を中心に今後の経済を下支えにつながるものと期待できる。しかし、バート高によるタイ輸出産業への悪影響がでることは否定できない。ヒストリカルに見ても34.50付近がBOTの防衛ラインであることは周知の事実となっていることから、このラインに到達する前に、介入警戒感からバート売り圧力は相応に見られるものと思われる。結果として、緩やかなバート高が徐々に進展していくものと予測する。また、ドルに関しては、トランプ大統領の演説の行方、3月のFOMCによる政策金利の引き上げ可否、等イベントが多数存在することから、こちらの動向にも注意が必要。また、欧州圏に目を向けると、フランス大統領選挙がもう残すところ1か月程度となる月であり、こちらの動向にも注意する必要があり、リスクオフの地合では、やはりドル売りが進行するものとみられ、その動向には気を配りたい。

■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 今月のつばやき(現地からの声)

『当地のラーメン(ヌードル)事情』
タイの麺料理といえば、真っ先に思い浮かぶのは「バミー」でしょうか。当地は屋台が非常に多く、または屋台が集まってできた青空市場のような一大フードコートのような場所が点在し、昼ごはんで利用することが多いです。その中で必ずと言っていいほど、麺料理が存在します。「バミー」とは日本の卵麺のようなもので小麦から作られる麺であり、ラーメンの麺に似ていると思います。また、「クイディアオ」は米を原料にした麺で、その太さで種類が分かれるが、最も細いものは日本のビーフンに似ているものです。また、「カオソーイ」というタイという地方の料理もあり、こちらはカレーラーメンのような味わいです。このようにタイにおいて、麺料理は麺の種類からその料理の仕方まで含めて多種多様に分かれており、タイ人の昼食に欠かせない食べ物とも言えます。一方で、夜ご飯等で食べるものではない模様で、どちらかと言えば、軽食のような扱いとなっているとのこと。スープありの普通のラーメンのようなものから、混ぜそばのようなもの、焼きそばのようなもの、何でも存在し、本当に種類が豊富です。さらには、屋台の数ほど味が異なることからその味わいは無限大と言えると思います。バンコックにお越しの際はぜひご賞味ください。

■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
2/1	消費者物価指数(前年比)	1月	1.50%	1.55%	1.13%
2/1	CPIコア(前年比)	1月	0.77%	0.75%	0.74%
2/1	消費者信頼感	1月	-	74.50	73.70
2/20	GDP(前年比)	4Q	3.00%	3.00%	3.20%
2/23	自動車販売台数	1月	-	57,254	86,858
2/27	輸出(通関ベース/前年比)	1月	8.40%	8.83%	6.20%
2/27	輸入(通関ベース/前年比)	1月	12.35%	5.17%	10.30%
2/28	経常収支	1月	\$2.248M	\$5,008M	\$3,719M

マレーシアリング相場

予想レンジ:

USD/MYR 4.38 ~ 4.48
MYR/JPY 25.00 ~ 26.00

アジア・オセアニア資金部 宮地 崇

■ 先月の為替相場

先月のリング相場は1日は休場であった為、2日に4.42台後半でオープン。オープン後、発表されたマレーシア1月製造業PMIが引き続き50を下回ったことから、4.44台前半まで軟化。しかし、米長期金利の低下を背景に4.43台前半まで反発。6日には米1月雇用統計の発表を控え、様子見ムードが強まり動意薄の展開となり4.42台半ばで越えた。

6日には、前週末に発表された米1月雇用統計にて平均賃金の伸びが市場予想を下回ったことから、米国の早期追加利上げ期待が後退。ドルが売られるなか、リングは約3か月ぶりとなる4.4200まで上昇。その後、仏大統領選を巡る政局不安や原油価格が大きく下落したことで4.44ちょうど近辺まで反落。10日には、前日の海外時間でのトランプ米大統領の税制改革表明を受けて、ドルが強含んだことでリングは4.44台後半まで続落。その後は、旧正月モードが続く中、値動きも限られ4.44台半ばまで値を戻した。

月半ばに入ると、前週末の日米首脳会談が波乱なく終了したことや原油価格の軟調推移を材料にリングは、4.44台後半まで下落。週央にかけては、イエレンFRB議長の議会証言が予想以上にタカ派だったことで、ドル買いが進み4.4500を上抜け。16日には、予想を上回るマレーシア10～12月期GDPが発表されるも流れを変えるには至らず4.45台後半まで続落した。

月後半には、欧州政治不安を背景としたリスクオフの展開に一旦弱含むも、堅調な原油相場を横目に下値も限定的となり、4.45台半ばを中心とした取引となった。22日には、マレーシア1月消費者物価指数(CPI)が発表され、予想を上回る内容となったことでリングは4.45台前半まで小幅上昇。その後週末にかけて、前日に公表されたFOMC議事要旨で目新しい材料が無かったことからややドル売りが強まり、4.44台前半まで買われる展開となった。

月末週には、トランプ米大統領の議会演説を控えるなか、リングがやや買われ4.43台後半まで上昇。その後、ややドルが値を戻し4.4400レベルでクローズした。

■ 今月の見通し

先月発表されたマレーシア2016年10～12月期GDP成長率は、前年比+4.5%と前期から上昇、さらに市場予想を上回る結果となった。また、2016年通年では前年比+4.2%と4%台を維持している。足許、原油価格の低迷に歯止めが掛かっていることや、底堅い個人消費を踏まえとマレーシア経済は回復基調に入ったものと思われる。加えて、12月の鉱工業生産や輸出入の動向もそれぞれ予想比良好な結果となっており、経済環境はリングをサポートする材料となる公算が大きい。

一方、外的要因に目を向けるとトランプ大統領の税制改革に対する期待感やイエレン議長の金融政策に係るタカ派なスタンスなど、ドル買いを連想させる内容が散見されている。無論、トランプ米大統領は保護貿易主義を思わせる発言もしており、ドル安誘導の可能性も否定はできないが、短期的に外的環境はドルがリングに対して強含むものと予想する。

しかしながら、これまでリング安の主な要因となっていた外国人投資家による資本流出にも変化が見られている。実際、1月のマレーシア国債の外国人資本流出も3億ドルまで沈静化しており、単月の経常黒字相当額にて吸収可能な水準となっている。また、マレーシア長期債券市場も落ち着きを見せており、パニック的な債券売りは一服したものと考えられる。

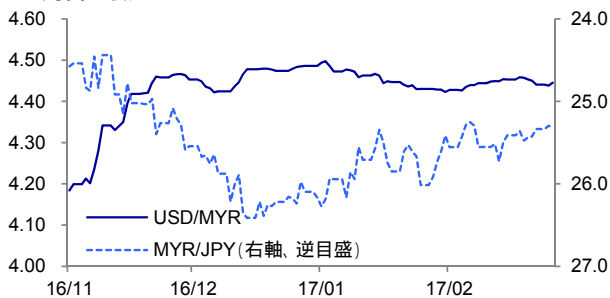
上記の材料から、全体的なドル買いの流れの影響は大きいものの、従来に比べ債券売りに伴うリング安が喚起されづらい状況を踏まえると、リングのやや上値の重い展開がメインシナリオか。

■ 今月のつばやき(現地からの声)

『当地のラーメン(ヌードル)事情』
「人類は麺類」との食品会社創業者の名言がありますが、当地マレーシアでも麺類はマレー系のミーゴレン(揚げ麺)、インド系ムスリムのレストランに多いミーママ(野菜等のトッピングの多い揚げ麺)、福建系のホッケンミー、客家系のパンミー、広東系の蝦麵、そして本邦のラーメンと多様な選択肢が広がっています。個人的に食べる機会が多いのはホッケンミー。都心部のペトロナスツインタワー下のショッピングモールSuria KLCC内のフードコートでもMYR8～11程度(200～300円)とお手ごろで、チキンライスと並んでランチに手ごろなファストフードです。ホッケンミーの定番はチキンミーですが、煮込んだ牛肉と頂くビーフミーも捨てがたく、結局週に1回ずつは食べているような気がします。さすがにイスラムのお国柄なので、フードコートでは豚肉入りの麺はあまり見かけることがありません(一方で中華系の茶餐廳では豚肉入りの麺も食べれます)。さて本邦のラーメンですが、当地では豚骨のお店が支配的。やはり鶏肉や牛肉を食べる機会が多いからでしょうか。左の欄の相場見通しを書いているM君も、シンガポールから当地に出張してくるときは、KLCCの東京豚骨ばんからラーメンでお昼を取るのが習慣になっているようです。日本のラーメンは凡そMYR30～40(750～1,000円)くらいで、地元の麺類に比べるとやはり割高ですが、シンガポールや東京と比べるとお財布にもやさしい派遣者の味方です。(マレーシアみずほ銀行 関上)

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
2/8	輸出(前年比)	12月	9.6%	10.7%	7.8%
2/8	輸入(前年比)	12月	10.2%	11.5%	11.2%
2/8	貿易収支(MYR)	12月	9.20b	8.72b	9.03b
2/10	鉱工業生産(前年比)	12月	4.0%	4.7%	6.2%
2/16	GDP(前年比)	4Q	4.4%	4.5%	4.3%
2/22	消費者物価指数(前年比)	1月	2.70%	3.20%	1.80%

インドネシアルピア相場

予想レンジ:

USD/IDR 13200 ~ 13700
 IDR/JPY 0.80 ~ 0.87
 JPY/IDR 115.00 ~ 125.00

(注)100インドネシアルピアあたりの対円レート

アジア・オセアニア資金部 河合 良介

■ 先月の為替相場

2月のドル/ルピアは、13280～13390のレンジでの取引となり、月中値動きが約100ポイントと小幅レンジでの推移となった。

月前半、13340近辺でスタートしたドル/ルピアは、13390近辺まで上昇する場面も見られたが、1日開催されたFOMCにて政策金利が予想通り据え置きとなると、イベント通過の安心感からルピアは買われ、13300台前半まで上昇した。国内経済指標では、1日発表のインドネシア1月消費者物価指数(CPI)が、前年比+3.49%に上昇、6日発表の10～12月期GDPは前年比+4.94%(予想:+5.00%、前回:+5.01%)と5%を下回ったが、通年では5%台を維持した。また7日発表の1月外貨準備高は、前月比微増となった。

8日、米格付け大手ムーディーズが、インドネシア格付けの見通しを「安定的」から「ポジティブ」への引き上げを公表すると、海外からの資金流入が加速、9日には、ドル/ルピアは一時13280近辺まで下落した。その後、インドネシア統一選挙を控え13300台前半での推移が続いた。10日発表された10～12月期経常収支は、USD▲1,812Mと前回(USD▲4,680M)比、大幅に赤字幅が縮小した。

注目のジャカルタ特別州知事選挙は、首位のバスキ現ジャカルタ州知事(通称アホック)、2位のアニス、両候補とも、過半数に及ばず、4月決戦投票まで持ち越されることとなった。

16日発表された1月貿易収支は、USD+1,396Mと市場予想を上回る黒字(予想:USD+823M、前回:USD1,046Mとなったが、市場の反応は限定的。また、同日、インドネシア中央銀行(BI)は金融政策決定会合にて、米国の政策不透明感や、国内のインフレ傾向などのリスクを勘案し、4か月連続で据え置きとした。

その後、月後半は輸入企業によるドル買い需要を受け、13300台後半に上昇し、2月23日現在(終値)、13350近辺での取引となっている。

■ 今月の見通し

今月のドル/ルピアは、メインシナリオとして、13300～13400をコアレンジとしたレンジ取引を予想する。

今月最大の注目は、15・16日に開催されるFOMCであろう。2月には、FRBメンバーからは、タカ派的なコメントが相次いだ、同月発表されたFOMC議事要旨(1月31日～2月1日開催分)では、早期利上げに対して前向きな姿勢は見られた。また、複数の参加者から新政権の経済政策への不確実性やドル高への懸念が示されている。このほか、市場も3月利上げを十分に織り込んでいる状況ではない。

上記市場環境下、仮に利上げとなると、上記のコアレンジを超えるルピア安が進行する可能性はあるものの、インドネシアの安定したマクロ経済指標、米格付け大手ムーディーズによるインドネシア格付けの見通し引き上げ等ポジティブな材料を勘案すれば、急激な海外資金流出は想定されず、一時的な動きになると見ている。

また、今月のBI金融政策決定会合は、15・16日に開催され、同日海外時間にFOMCの結果発表を控えて、動きづらいことから、5か月連続の据え置きを予想する。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のラーメン(ヌードル)事情』
 在任期間中によく食していたのが、「ミー(麵)アヤム(鶏)」と呼ばれる、ご当地ヌードルです。

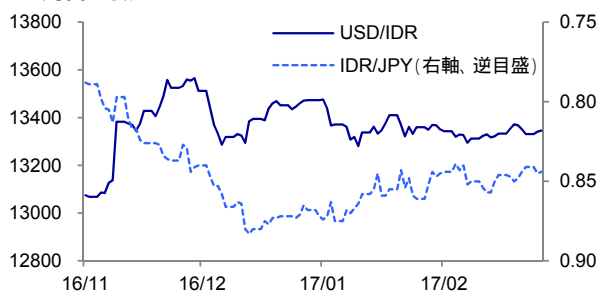
これは、甘辛く煮た鶏肉、青菜、ネギ等具材と小麦の麺が入った丼ぶりと、鶏がらの塩味のスープが別々に運ばれます。

通常は、このスープを丼ぶりにかけて食します(別々でも良いのかもしれませんが)。スープ自体があっさりしていておいしいのですが、鶏肉についた甘いソースが、このスープと混じり、時間が経つに連れ、味わいが深まっています。

非常にお腹に優しい食べ物なので、土曜日のゴルフ場で、前日の二日酔いを引きずったラウンド前のプレイヤー達が食しているのよく見かけます。他人事のように書きましたが、当然、私も、お世話になったうちの一人です、...

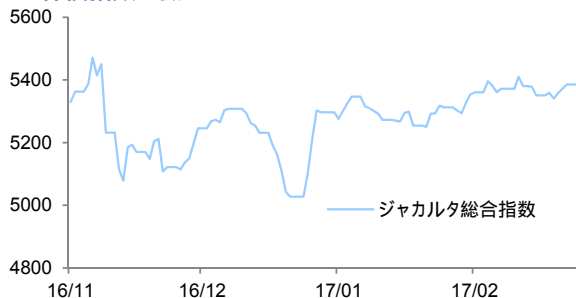
■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント
2/1	CPI(前年同月比)
2/6	GDP(前年比)
2/7	外貨準備高(USD B)
2/10	経常収支(USD M)
2/16	貿易収支(USD M)
2/16	輸出(前年比)
2/16	BI 7daysリバースレボ金利

(資料)ブルームバーグ				
期間	予想	結果	前回	
1月	3.20%	3.49%	3.02%	
4Q	5.00%	4.94%	5.01%	
1月	-	116.9	116.4	
4Q	-2,900	-1,812	-4,680	
1月	823	1,396	1,046	
1月	19.75%	27.71%	16.04%	
	4.75%	4.75%	4.75%	

フィリピンペソ相場

予想レンジ:

USD/PHP	49.80	~	51.00
PHP/JPY	2.19	~	2.28

マニラ支店 樋上 陽一

■ 先月の為替相場

先月のドル/ペソ為替相場は1ドル=49.70ペソで取引開始となった。米金利の先行きを占う上で注目された1日のFOMCでは、予想通り全会一致で米国の政策金利が据え置かれた。声明文は、前回の12月分をほぼ踏襲し、家計と企業のセンチメント改善を指摘するなど、経済が堅調に推移しているとの認識が示されたが、米金利の先高観にはつながらず。3日の米1月雇用統計後のドル売りの流れ、9日のフィリピン中銀(BSP)金融政策委員会を前にしたポジション調整もあり、ドル/ペソは7日に先月のペソ高値である1ドル=49.62ペソで取引された。

しかしながら、仏大統領選挙に絡む政局不安、フランスのEU離脱(FREXIT)懸念からリスクオフが強まるとドルが強含む展開に。9日のBSP金融政策委員会では、市場予想通り主要金利が据え置きとなり、相場への影響は限定的。

ドル/ペソは、10日には一時1ドル=49.96ペソで取引されたが、1ドル=50ペソを手前に当局介入と思しきドル売りに押し戻された。

14日の海外時間には、注目されていたイエレンFRB議長の議会証言があり、早期利上げ観測が高まり、米金利が上昇したことでドル/ペソもじりじりとしたドル買い地合に。

週明け20日は、長らく中銀が防衛していた水準である1ドル=50ペソを上抜けし、1ドル=50.08ペソでギャップオープン。

週明けのドル買いの背景は、欧州の政治リスクからくる逃避的なドル買い、トランプ大統領の大型減税案への期待感、FOMC議事要旨でのタカ派トーン期待など。また、実需取引でドル買いが強かったことも中銀が1ドル=50ペソを超えるペソ安を容認した理由とみられる。

ドル/ペソは一時1ドル=50.355ペソまで買われ、28日10時現在1ドル=50.20~30ペソでの取引となっている。

■ 今月の見通し

ドル/ペソはとうとう1ドル=50ペソ台へと上昇。20日の月曜日にギャップオープンし、チャート上に空いた窓を埋める気配もなかった。この3か月、1ドル=50ペソを超えるペソ安を執拗に防衛してきただけにその反動で1ドル=50ペソ丁度は逆にサポートとして意識されそうだ。ドル買い圧力は強く、中銀がどのレベルまでのペソ安を容認できるか、相場はそれを確認しにいく動きか。

先月20日に発表された比1月総合国際収支は前月の▲2.1億ドルの赤字から▲9百万ドルの赤字へと大幅に縮小。一方、今年に入ってからフィリピン株式指数(PSEi)は7200~7400ポイントで安定推移しているが、外国人投資家のフィリピン株売買動向は6週連続で売り越しを記録。資金流出に歯止めが掛らず為替相場にはドル売り圧力が掛りやすい状況。

米株高がもたらすリスクオン地合はアジアには波及しておらず、ペソが買われるイメージが持ちづらい。

さて、ペソ高材料として語られるOFW(海外在留フィリピン人労働者)送金だが、先月15日に12月の実績が発表された。送金金額は単月で過去最大の+25.6億ドルとなり、2016年の送金金額は+269億ドルを記録(2015年対比+5%増)した。数字としてはペソのサポート材料だが、OFW送金の3割強は米国からで、保護主義を強めるトランプ米大統領の政策が与える影響は気になるところ。BSPは今後のインフレ見通しについて、2017年を+3.3%から+3.5%に、2018年は+3%から+3.1%に上方修正した。インフレターゲット(+2~4%)の範囲内であるものの、ペソ安、原油価格動向によっては上振れるリスクに留意。またタンコBSP総裁は、2月の消費者物価指数が+3.1~3.9%の間になる可能性を示唆。2014年11月に記録した+3.7%に匹敵する上昇率に達する可能性が出てきたことで、ペソ金利上に昇圧力が掛りやすい状況。利上げについての思惑が強まりそうだ。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地のラーメン(ヌードル)事情』

残念、とっても残念。
フィリピンはご当地麺がない。

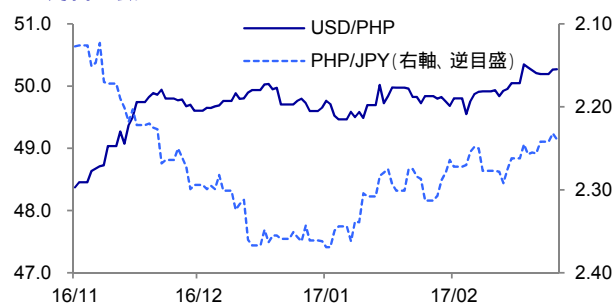
タイであればバーミー、ベトナムでいえばフォー、マレーシアのラクサ...

麺好きの日本人としては残念で仕方ありません。

でも結構、日本のラーメン屋が当地に進出していて困りません。優勝軒、山頭火、一風堂...

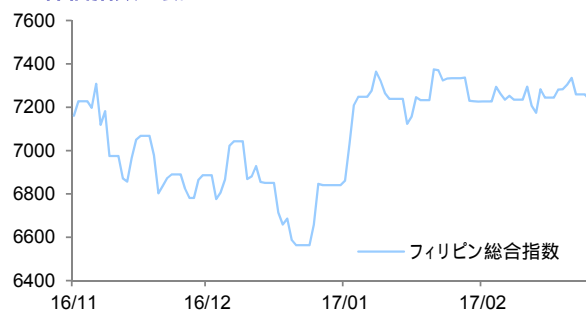
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント
上記ご参照	

期間	予想	結果	前回
----	----	----	----

(資料) ブルームバーク

インドルピー相場

予想レンジ:

USD/INR 66.50 ~ 68.50
INR/JPY 1.62 ~ 1.72

アジア・オセアニア資金部 田川 順也

■ 先月の為替相場

【2月のドル/インドルピーは下落した】

67.47レベルで月初オープンしたドル/ルピーは1日に発表された緩和スタンスな予算案及び、節目となる50を上回る結果となった製造業PMIを受けてルピーが買われる展開。フランス政局不安に伴うリスク回避の流れに、短期的にルピーが売られる場面もあったが、8日インド準備銀行(RBI、中央銀行)の金融政策決定会合で利下げの市場予想に反し、金利据え置きが決定されると、サプライズとなり、当月の安値である66.80近辺までルピーが売られる展開。

但し、その後は下値追いつとはならず、安値圏での安定した値動きが続いたが、終盤にかけては原油市場の軟調さや、FRB高官が利上げに対して前向きな発言を行うと、65.65近辺まで下落し、66.69レベルで月内の取引を終えた。

尚、ルピー/円は方向感の出づらいつ展開。

1.66レベルでスタートしたルピー/円は当初揉み合ったが、RBI会合で上抜けて1.71超えとなった。但し、月半ば以降にドル/円が115円を前に切り返し、円高となると、ルピー/円も上値追いつとはならず水準を戻しに行く展開。月末にかけてドル/円が年初来安値付近まで下落するとルピー/円も1.67近辺まで下落するも、結局1.69レベルでクローズした。

■ 今月の見通し

【3月のドル/インドルピー相場は底堅いつ展開を想定】

先月の政策決定会合では市場予想に反し、利下げを見送り。要因としては、コアインフレが粘り強さを示していることに加え、高額紙幣廃止の影響を一時的と判断していることによる。一方で成長率見通し並びに、物価見通しは下方修正がされており、ちぐはぐな結果に。併せて、来年度予算については高額紙幣廃止の悪影響を要因として、GDP比の財政赤字目標を緩和している。金融政策と財政政策の判断基準もバランスが見いだせない状況下、半ばドル高の地合いの中で、金利引き下げによるルピーの下落の可能性を警戒したもののとも受け取れる。

他方で、インド経済指標については、製造業PMIこそ底堅さを見せたが、鉱工業生産や貿易統計は高額紙幣廃止の影響が表れている。金融政策の方向感が、従前より利下げに対して慎重さが出てきているとも見られるが、安心するには材料不足感が否めない。

先月のドル/ルピーの水準はFRBが利上げ回数予想を上方修正する前の水準までドル安/ルピー高が進行したが、66.50を割り込むとトランプ氏の当選前の水準であり、ここからルピーを買い上げていくには相当の覚悟が必要だろう。

先月のドルインデックスは振らされる場面こそあったものの、結局は1月末対比で水準を切り上げており、トランプラリー継続中と言って差支えないだろう。

ダウンサイド(ドル/ルピーの下落)リスクとしてはトランプ政権のドル高けん制発言、アップサイド(ドル/ルピーの上昇)リスクとしては、3月11日開票予定の5つの州選挙を欧州の政局不安と共にケアしておきたい。

■ 今月のつづき(現地からの声)

『当地のラーメン(ヌードル)事情』

インド料理にラーメンはない。

そのインドにおいて、77%のシェア(2015年1月、インド進出支援ポータル)を誇ったマギーという即席麺のブランドがある。スイスの食品会社ネスレが販売する製品で、インドらしく味はマサラ、スパイス・ベジタブル等がある。

鍋で麺をゆでて同封のスープの素を入れるタイプやお湯を注ぐだけのカップ麺がある。スパイスの独特な風味はあるが、普通の即席麺で特段の違和感なく食べられる。

そんなにも支持されたマギーではあるが、2015年6月に「過度の鉛が含まれている」とされ5か月の販売停止となった。その後、2016年1月にはシェアは42%まで縮小した。

現在盛り返しつつあるも、その為日本企業を含め様々な企業にチャンスが到来。ラーメン好きとしては、どんな商品が市場を賑わせるのか楽しみだ。

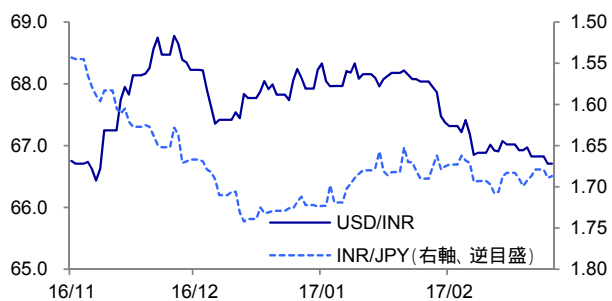
さて、筆者の住む南インドタミルナドゥ州チェンナイには日本人が経営するラーメン専門店がある。

2015年にオープンした「秋平ラーメン」は、インド人にも親しみやすいようベジタリアンラーメンも揃えており、味にうるさい日本人を満足させながらローカルに人々に受け入れられるものをと、様々な工夫を凝らす。ここ最近増えてきたとはいえインドの南側には北インド程日本食のレストランがなく、日本の味を楽しめる貴重な場所だ。

店内では、ローカルの人々が箸の使い方をレクチャーされながらラーメンを楽しむ姿を見ることがある。マギーが受けたことから考えても、インドで日本のラーメンがポピュラーになる日がそのうち来るかも？(チェンナイ支店 近藤)

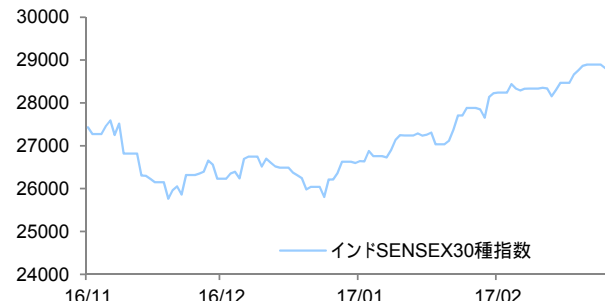
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

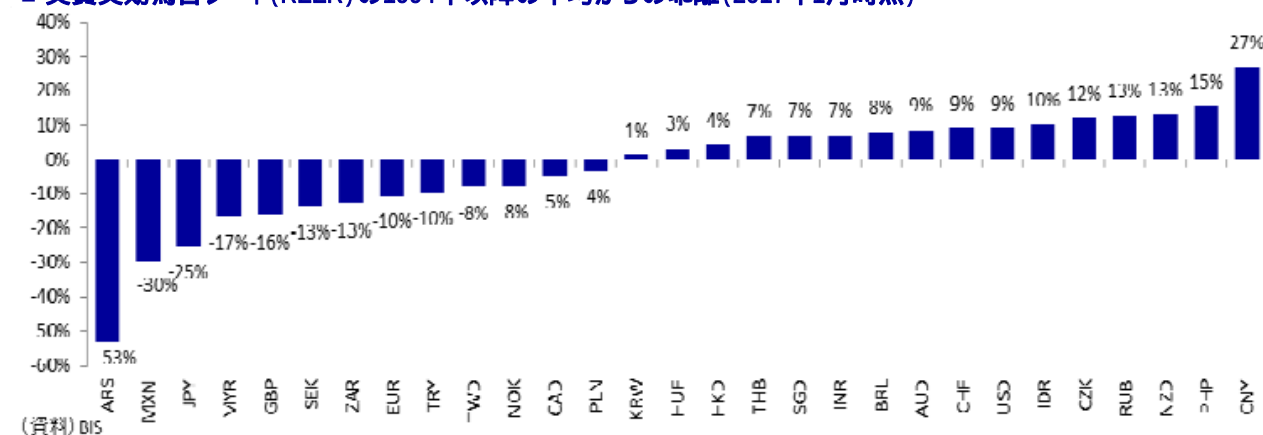
発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
2/1	日経インドPMI製造業	9月	-	50.4	49.6
2/3	日経インドPMIサービス業	-	-	48.7	46.8
2/8	RBIレポート	9月	6.00%	6.25%	6.25%
2/10	鉱工業生産(前年比)	8月	1.2%	-0.4%	5.7%
2/13	消費者物価指数(前年比)	9月	3.24%	3.17%	3.41%
2/15	貿易収支	9月	▲\$10.2B	▲\$9.8B	▲\$10.3B
2/15	輸入(前年比)	9月	-	10.7%	0.5%
2/15	輸出(前年比)	9月	-	4.3%	0.5%

■ 為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2016年末	2017年2月末	騰落率	株式市場	2016年末	2017年2月末	騰落率	USD換算
先進国									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	19762.6	20812.24	5.3%	-
日本	USD/JPY	116.96	112.77	-3.6%	日経平均株価	19114.37	19118.99	0.0%	3.7%
ユーロ圏	EUR/USD	1.0517	1.0576	0.6%	ドイツDAX指数	11481.06	11834.41	3.1%	3.1%
英国	GBP/USD	1.234	1.238	0.3%	ロンドンFTSE100指数	7142.83	7263.44	1.7%	1.4%
豪州	AUD/USD	0.7208	0.7657	6.2%	S&P/ASX200指数	5665.8	5712.221	0.8%	-5.1%
カナダ	USD/CAD	1.3441	1.3301	-1.0%	S&Pトント総合指数	15287.59	15399.25	0.7%	1.8%
エマーシングアジア									
中国	USD/CNY	6.945	6.867	-1.1%	上海総合	3103.637	3241.733	4.4%	5.6%
香港	USD/HKD	7.7559	7.7624	0.1%	香港ハンセン	22000.56	23740.73	7.9%	7.8%
インド	USD/INR	67.9238	66.69	-1.8%	インドSENSEX30種	26626.46	28743.32	8.0%	9.9%
インドネシア	USD/IDR	13473	13338	-1.0%	ジャカルタ総合	5296.711	5386.692	1.7%	2.7%
韓国	USD/KRW	1205.83	1130.28	-6.3%	韓国総合株価	2026.46	2091.64	3.2%	10.1%
マレーシア	USD/MYR	4.4862	4.4405	-1.0%	ブルサマレーシアKLCI	1641.73	1693.77	3.2%	4.2%
フィリピン	USD/PHP	49.6	50.269	1.3%	フィリピン総合	6840.64	7212.09	5.4%	4.0%
シンガポール	USD/SGD	1.4468	1.4032	-3.0%	シンガポールST	2880.76	3096.61	7.5%	10.8%
台湾	USD/TWD	32.326	30.679	-5.1%	台湾加権	9253.5	9750.47	5.4%	11.0%
タイ	USD/THB	35.835	34.936	-2.5%	タイSET	1542.94	1559.56	1.1%	3.7%

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2017年1月時点)



■ 実質GDP成長率

	2015Q2	2015Q3	2015Q4	2016Q1	2016Q2	2016Q3	2016Q4	2015	2016
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
先進国									
米国*	2.6	2.0	0.9	0.8	1.4	3.5	1.9	2.6	1.6
日本*	-0.4	0.8	-1.2	2.3	1.8	1.4	1.0	1.2	1.0
ユーロ圏	2.0	1.9	2.0	1.7	1.6	1.8	1.7	2.0	
英国	2.4	1.8	1.7	1.8	2.0	2.2	2.0	2.2	1.8
豪州	2.0	2.4	2.6	2.5	3.1	1.8		2.4	
カナダ*	-0.5	2.3	0.5	2.7	-1.3	3.5		1.0	
エマージングアジア									
中国	7.0	6.9	6.8	6.7	6.7	6.7	6.8	6.9	6.7
香港	3.1	2.3	1.9	1.0	1.7	2.0	3.1	2.4	1.9
インド	7.5	7.6	7.2	7.9	7.1	7.4	7.0	7.9	
インドネシア	4.7	4.8	5.2	4.9	5.2	5.0	4.9	4.9	5.0
韓国	2.2	2.8	3.1	2.8	3.3	2.6	2.3	2.6	2.7
マレーシア	4.9	4.7	4.5	4.2	4.0	4.3	4.5	5.0	4.2
フィリピン	5.9	6.2	6.5	6.8	7.0	7.0	6.6	5.9	6.8
シンガポール	2.0	2.1	1.3	1.9	1.9	1.2	2.9	2.0	2.0
台湾	0.7	-0.7	-0.8	-0.2	1.1	2.1	2.9	0.7	1.4
タイ	2.9	3.0	2.7	3.1	3.6	3.2	3.0	2.9	3.2

(注) インドの年間成長率は会計年度(4～3月)。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 失業率

	16/07	16/08	16/09	16/10	16/11	16/12	17/01	2015	2016
	(%)							(%)	
先進国									
米国	4.9	4.9	4.9	4.8	4.6	4.7	4.8	5.3	4.9
日本	3.0	3.1	3.0	3.0	3.1	3.1		3.4	3.1
ユーロ圏	10.0	10.0	9.8	9.7	9.7	9.6		10.9	10.0
英国	4.9	4.9	4.8	4.8	4.8	4.8		5.4	4.9
豪州	5.7	5.7	5.6	5.6	5.7	5.8	5.7	6.1	5.7
カナダ	7.0	7.0	7.0	7.0	6.8	6.9	6.8	6.9	7.0
エマージングアジア									
中国			4.0			4.0		4.1	4.0
香港	3.4	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3	3.4
インドネシア		5.6						6.0	5.6
韓国	3.6	3.8	3.9	3.8	3.6	3.5	3.6	3.6	3.7
マレーシア	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4			3.2	3.5
フィリピン	5.4			4.7				6.3	5.5
シンガポール			2.1			2.2		1.9	2.1
台湾	4.0	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9
タイ	1.0	0.9	0.9	1.2	1.0	0.8	1.2	0.9	1.0

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 消費者物価上昇率

	16/07	16/08	16/09	16/10	16/11	16/12	17/01	2015	2016
	(前年比%)							(前年比%)	
先進国									
米国	0.8	1.1	1.5	1.6	1.7	2.1	2.5	0.1	1.3
日本	-0.4	-0.5	-0.5	0.1	0.5	0.3		0.8	-0.1
ユーロ圏	0.2	0.2	0.4	0.5	0.6	1.1	1.8	0.0	0.2
英国	0.6	0.6	1.0	0.9	1.2	1.6	1.8	0.0	0.7
豪州			1.3			1.5		1.5	1.3
カナダ	1.3	1.1	1.3	1.5	1.2	1.5	2.1	1.1	1.4
エマージングアジア									
中国	1.8	1.3	1.9	2.1	2.3	2.1	2.5	1.4	2.0
香港	2.3	4.3	2.7	1.2	1.2	1.2	1.3	3.0	2.4
インド	6.1	5.1	4.3	4.2	3.6	3.4	3.2	5.9	5.0
インドネシア	3.2	2.8	3.1	3.3	3.6	3.0	3.5	6.4	3.5
韓国	0.4	0.5	1.3	1.5	1.5	1.3	2.0	0.7	1.3
マレーシア	1.1	1.5	1.5	1.4	1.8	1.8	3.2	2.1	2.1
フィリピン	1.9	1.8	2.3	2.3	2.5	2.6	2.7	1.4	1.8
シンガポール	-0.7	-0.3	-0.2	-0.1	0.0	0.2	0.6	-0.5	-0.5
台湾	1.2	0.6	0.3	1.7	2.0	1.7	2.3	-0.3	1.4
タイ	0.1	0.3	0.4	0.3	0.6	1.1	1.6	-0.9	0.2

(注) 豪州は四半期データ。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 経常収支

	2015Q2	2015Q3	2015Q4	2016Q1	2016Q2	2016Q3	2016Q4	2015	2016
	(対GDP比%)							(対GDP比%)	
先進国									
米国	-2.4	-2.5	-2.5	-2.6	-2.6	-2.6		-2.6	
日本	2.2	2.8	3.1	3.4	3.5	3.7	3.8	3.1	3.8
ユーロ圏	2.9	3.0	3.0	3.1	3.3	3.2		3.0	
英国	-4.6	-4.3	-4.3	-4.4	-4.6	-5.1		-4.3	
豪州	-5.2	-4.8	-5.6	-3.6	-3.7	-2.4	-0.9	-4.7	-2.7
カナダ	-3.0	-3.3	-3.4	-3.3	-3.5	-3.5		-3.4	
エマージングアジア									
中国	3.2	3.0	3.0	2.6	2.4	2.4	1.9	3.0	1.9
香港	2.7	3.2	3.3	3.9	4.5	4.3		3.3	
インド	-1.3	-1.1	-1.1	-1.1	-0.8	-0.5		-1.1	
インドネシア	-2.5	-2.2	-2.1	-2.1	-2.2	-2.1	-1.7	-2.1	-1.7
韓国	7.0	7.6	7.7	7.9	7.9	7.3		7.7	
マレーシア	2.7	2.5	2.9	2.4	1.9	1.9	2.0	2.9	2.0
フィリピン	4.1	3.4	2.6	2.1	1.0	1.0		2.6	
シンガポール	18.5	18.1	18.1	17.2	18.8	19.5	19.0	18.1	19.0
台湾	13.2	14.1	14.4	14.0	14.3	13.7	13.3	14.4	13.3
タイ	5.7	7.2	8.1	10.2	11.0	11.9	11.3	8.1	11.3

(注) インドの年間経常収支は会計年度(4～3月)。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 世界の政策金利

		現在 (%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向	
			日付	水準 (%)	日付	(単位:bp)	日付	決定事項
先進国								
米国	FFレート誘導目標	0.50 - 0.75	引き締め: 2015/12/17	0.25 - 0.50	2016/12/15	25	2017/2/2	現状維持
日本	無担保コール翌日物金利	0.10	緩和: 2008/10/30	0.50	2010/10/5	0-10	2017/1/31	現状維持
ユーロ圏	主要リファイナンスオペ金利	0.00	緩和: 2011/11/3	1.50	2016/3/10	-5	2017/1/19	現状維持
英国	バンク・レート	0.25	緩和: 2007/12/6	5.75	2016/8/4	-25	2017/2/2	現状維持
豪州	キャッシュ・レート	1.50	緩和: 2011/11/1	4.75	2015/8/2	-25	2017/2/7	現状維持
カナダ	翌日物金利	0.50	緩和: 2015/7/15	1.00	2015/1/22	-25	2017/1/18	現状維持
エマージングアジア								
中国	1年物貸出基準金利	4.35	緩和: 2012/6/8	6.31	2015/8/25	-25	2015/10/23	-25bp
インド	翌日物レボ金利	6.25	緩和: 2015/1/15	8.00	2016/10/4	-25	2017/2/8	現状維持
インドネシア	7日物リバースレポレート	4.75	緩和: 2015/2/17	7.75	2016/10/20	-25	2017/2/16	現状維持
韓国	7日物レボ金利	1.25	緩和: 2012/7/12	3.00	2015/6/9	-25	2017/2/23	現状維持
マレーシア	翌日物金利	3.00	緩和: 2016/7/13	3.00	2016/7/13	-25	2017/1/19	現状維持
フィリピン	翌日物金利	3.00	緩和: 2016/5/16	3.00	2016/5/16	-100	2017/2/9	現状維持
タイ	翌日物レボ金利	1.50	緩和: 2011/11/30	3.50	2015/3/11	-25	2017/2/8	現状維持
ベトナム	リファイナンス金利	6.50	緩和: 2012/3/12	15.00	2014/3/17	-50	2014/12/23	現状維持

(注) インドネシア中銀は2016年8月19日に政策金利をB/Lレートから7日物リバースレポレートに変更

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行